

平成 29 年度

九州共立大学

地域連携推進センター 報告書

平成 30 年 5 月

地域連携推進センター

九州共立大学 地域連携推進センター報告書に寄せて

地域連携推進センター

所長 篠原純司

本学は、平成29年4月より、これまで実施してきた地域との連携体制のさらなる充実を図るため、「生涯学習研究センター」を「地域連携推進センター」に名称変更すると共に、「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習・資格取得支援」の事業を一体的に運営できるよう組織改編を行いました。

また、本学創立50周年である平成27年度より、北九州市体育協会、岡垣町、水巻町、北九州商工会議所、北九州市教育委員会、北九州市と連携協定を締結し、現在は23件の地域連携プランが実施されるまでに至りました。これらの地域連携プランは、いずれも地域の方々と本学の学生および教職員が「協働」で実施する地域活動であり、より良い地域社会の実現に向け、今後益々の充実が期待されています。

このたび刊行される「九州共立大学 地域連携推進センター報告書」は、地域連携プランで実施された活動は元より、本学が取り組んでいる生涯学習・資格取得支援なども含めた地域連携活動についてまとめたものです。

本学は、自治体や企業など諸機関との連携をより一層深め、「地域と共に立つ大学」を目指し精進していく所存です。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

目 次
《地域連携事業プラン》

1. 【北九州市体育協会】	
・「体育施設運営士」「体育施設管理士」養成講習会・資格認定試験	… 1
2. 【岡垣町】	
・核兵器廃絶 平和の町宣言事業・制作サポーター	… 3
・「地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）」	… 5
・「岡垣学の構築」（岡垣学Ⅰ）	… 6
・学生のサービス・ラーニングを活用した人権意識調査の実施・分析	… 7
・第 14 回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会	
スポット講座「走り方レッスン」	… 9
・内浦小学校体カテストの実施	… 11
・楽しく筋カツ～九州共立大学教授に学ぶ筋力アップ講座～	… 12
・サンリーアイこどもキャンプファイナル	… 13
・遠賀郡スポーツ推進委員協議会 研究会	… 15
・障がい者クリスマス交流会	… 16
・国内短期留学事業「ふれあい inSANADA」	… 18
・岡垣ウォーキング教室	… 19
・ボランティア交流会	… 21
3. 【北九州商工会議所】	
・「若松まちゼミ」への参画	… 22
・「若松がんばろう会」への参画	… 23
・大型クルーズ船の受け入れに伴う外国人客のおもてなし	… 24
4. 【北九州市教育委員会】	
・小学校におけるスクールヘルパー	… 26
・部活動外部講師派遣	… 27
5. 【北九州市】	
・北九州マラソン 2018	… 28
6. 【堀川まちおこし実行委員会】	
・第 16 回 堀川いっせい清掃	… 29
・シンポジウム「第 2 回 水と緑とまちおこし」	… 31
7. 【八幡西区役所 保健福祉課】	
・脳活性化教室修了者への介護予防支援	… 32

目 次
《人材育成・共同研究事業》

1. ワークショップ A (セパレート方式・就労継続支援 B 型事業所 ワークなごみ)	… 33
2. 運動メソッド開発及び実施	… 34
3. 「北九州ゆめみらいワーク 2017～ミライをえらべ～」	… 36
4. 地域交流事業	… 38
5. JR 九州ウォーキング	… 39
6. サイバーパトロールモニター	… 40
7. 黒崎こども商店街 2017	… 41
8. 第 14 回北九州チャンピオンズカップ 国際車椅子バスケットボール大会	… 42
9. 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室	… 44
10. 知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」	… 46
11. 健康運動指導士養成講習会	… 49
12. 九州共立大学フィットネスセミナー	… 50
13. 北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎研修 地域ふれあいコース	… 51
14. アンビシャス広場 運営スタッフ連絡会	… 52

目 次
《生涯学習・資格取得支援》

1. 平成 29 年度講座実施報告	… 53
2. 九州共立大学スポーツ救急法講座	… 55
3. 福原学園キャンパス市民ボランティア活動報告	… 56
4. 北九州市民カレッジ講座	… 57
5. 北九州市立年長者研修大学校穴生学舎シニアサマーカレッジ	… 59
6. 第 15 回 ボランティアフェスタ in 八幡西	… 60
7. 平成 29 年度資格取得支援プログラム講座別受講者数集計表（延べ数）	… 61

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：公益財団法人北九州市体育協会・九州共立大学・ 公益財団法人日本体育施設協会 事業名：平成29年度年度公益財団法人日本体育施設協会認定 「体育施設運営士養成講習会・資格認定試験」	
九州共立大学	事業責任者	長野 史尚
	所 属	経済学部
	実施担当者	長野 史尚
	所 属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3021
連携機関	機 関 名	《機 関 名》公益財団法人北九州市体育協会
	責 任 者	《職・氏名》事務局長 宮田 義高
	連 絡 先	《電話番号》(093) 652-5007
事業実施日・回数	8月21日～23日(2日間12時間) 24日(認定試験60分)	
実施場所	九州共立大学 第1学舎	
事業対象者 参加人数	事業対象者：体育施設管理士資格を目指す者 参加者人数：15名	
経 費	講師謝礼金支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>体育施設の管理運営に必要な知識・技能を習得することによって、指定管理者制度や事業運営等に対応できるマネジメント能力の向上を図ると同時に、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的とし、マネジメント、顧客管理、広報戦略、人事管理、財務・予算管理、危機管理など体育・スポーツ施設の運営に関する総合的な知識を有して、施設の効率的運営及び活性化に努める者を育成する。</p> <p>2. 実績</p> <p>九州共立大学経済学部所属の教員5名(新井智教授、森部昌広特別客員准教授、大谷美咲講師、堂野崎融講師、長野)と非常勤講師(上村英樹氏)の協力により、15名の参加者に対して講習会を実施した。</p> <p>24日の資格認定試験は公益財団法人日本体育施設協会より松川氏が試験監督として来校した。</p> <p>受講生は福岡・広島・熊本・長崎・島根からの参加であった。</p> <p>3. 効果</p> <p>受講生15名が試験を受け、15名全てが合格を果たした。</p> <p>今後、北九州を始めとして各地で体育施設運営士の資格を取得した人材が活躍することが期待できる。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<ul style="list-style-type: none"> ・開催期日についての検討 ・受講者数を増やす工夫 ・その他 	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：公益財団法人北九州市体育協会・九州共立大学・ 公益財団法人日本体育施設協会 事業名：平成29年度年度公益財団法人日本体育施設協会認定 「体育施設管理士養成講習会・資格認定試験」	
九州共立大学	事業責任者	長野 史尚
	所 属	経済学部
	実施担当者	長野 史尚
	所 属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3021
連携機関	機 関 名	《機 関 名》公益財団法人北九州市体育協会
	責 任 者	《職・氏名》事務局長 宮田 義高
	連 絡 先	《電話番号》(093) 652-5007
事業実施日・回数	2月6日～9日	
実施場所	九州共立大学 第1学舎	
事業対象者 参加人数	事業対象者：体育施設管理士資格を目指す者 参加者人数：17名	
経 費	講師謝礼金支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識を習得することによって、体育施設管理者の資質向上とともに、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的とし、屋外スポーツ施設、体育館・武道館、水泳プール、音響、照明、スポーツフロアー、用器具、芝生など体育・スポーツ施設全般の維持管理に関する総合的な知識を有して、スポーツ施設の管理者として努める者の育成を目指す。</p> <p>2. 実績 九州共立大学経済学部所属の教員4名（森江由美子准教授、森部昌広特別客員准教授、森誠護講師、長野）と非常勤講師（上村英樹氏、白川憲一氏）の協力により、17名の参加者に対して講習会を実施した。 26日の資格認定試験は公益財団法人日本体育施設協会より古賀氏が試験監督として来校した。 受講生は福岡・長崎・熊本・広島からの参加であった。</p> <p>3. 効果 受講生17名が試験を受け、17名全てが合格を果たした。 今後、北九州を始めとして各地で体育施設管理士の資格を取得した人材が活躍することが期待できる。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<ul style="list-style-type: none"> ・開催期日についての検討 ・受講者数を増やす工夫 ・その他 	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町 事業名：核兵器廃絶平和の町宣言事業・制作サポーター	
九州共立大学	担 当 者	白石忍・大和裕美子
	所 属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3185（大和研究室）
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町
	責 任 者	《職・氏名》地域づくり課 人権・男女共同参画係
	連 絡 先	093-282-1211（代表）
事業実施日・回数	別表参照 《計14回》	
実施場所	岡垣サンリーアイ・長崎市	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部8名、教員：2名 計10名	
	事業対象者：岡垣町民をはじめとする市民	
	参加者人数：約600人	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>「平成29年度岡垣町核兵器廃絶平和の町宣言事業」は8月6日の13時45分に開演し、16時過ぎまで行われた。主催は、岡垣町・岡垣町教育委員会、岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団、RKB毎日放送（株）で、協力団体は岡垣ふれあい文化塾「さんりん舎」と九州共立大学であった。事業では、「17人の小学生が「平和とは何か」を考えながら長崎に行き、見たこと、聞いたこと、感じたことを発表」する場が第2部に設定された。</p> <p>2. 実績</p> <p>本学学生の8名が発表する小学生のサポート役を担った。具体的には、「ワークショップB」を履修する本学経済学部の2年生のうち、小学校免許の取得を目指す3名（2単位認定）および経済学部4年生5名（ボランティア）の合計8名が参加した。約4ヶ月にわたって、小学生の発表練習に付き添い、励ましたり、アドバイスを与えたりしながら、小学生を支える役割を果たした。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学学生はどのように「サポート」すればよいかを自問自答しながら、自らが果たし得る役割を模索した。それは目の前にある課題を発見し、その解決策を考える試みであったといえる。本事業が4ヶ月の長期にわたって実施されたことも、参加学生の学修効果を高めたと考えられる。事業関係者からの本学学生にたいする評価も高く、地域事業の貢献に寄与できたと思われる。</p>	
今後の改善内容 及び展開	来年度も長期間にわたるのであれば、学生のモチベーション維持などにたいする工夫が求められるであろうが、来年度も事業に参加し、地域貢献と学生の学びの双方において成果を得ることができると試みにしていきたい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

事業名：平成 29 年度岡垣町核兵器廃絶平和の町宣言事業・制作サポーター

事業実施日・回数

月／日	時間	会場	内容
4 / 1 5 (土)	10:00~12:00	視聴覚室	オリエンテーション①
4 / 2 2 (土)	10:00~12:00	視聴覚室	オリエンテーション②
5 / 1 4 (日)	7:00~19:00	長崎市	現地取材
5 / 2 7 (土)	13:00~15:00	208 会議室	練習①
6 / 3 (土)	13:00~15:00	208 会議室	練習②
6 / 1 1 (日)	13:00~15:00	208 会議室	練習③
6 / 1 7 (土)	13:00~15:00	208 会議室	練習④
6 / 2 5 (日)	13:00~15:00	208 会議室	練習⑤
7 / 8 (土)	13:00~15:00	208 会議室	練習⑥
7 / 1 5 (土)	13:00~15:00	208 会議室	練習⑦
7 / 2 2 (土)	13:00~15:00	ハミングホール	練習⑧
7 / 2 9 (土)	13:00~15:00	ハミングホール	練習⑨
8 / 5 (土)	13:00~16:00	ハミングホール	前日リハーサル
8 / 6 (日)	8:30~17:00	ハミングホール	当日リハーサル、本番・反省会



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町と九州共立大学 事業名：「地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）」	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》 093-693-3403
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 岡垣町役場
	責 任 者	《職・氏名》 企画政策室企画政策係長 早川篤志 生涯学習課主任 下川航也
	連 絡 先	《電話番号》 093-282-1211
事業実施日・回数	4月～11月 《計10回》	
実施場所	岡垣町に所在する公共施設を借用	
参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部8名 留学生（中国）1名 計9名	
経 費	特別研究費	
事業目的・内容等及び実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>学生が岡垣町の地域活性化を目的とした岡垣歴史新聞を作成して、町内に配布した。岡垣町と九州共立大学の地域連携を進展させ、学生の学びの機会、岡垣町のまちづくりへの貢献、大学の知（地）の拠点等に効果がある地域貢献活動を実践した。</p> <p>2. 実績</p> <p>内容は、以下の通り。</p> <p>1 事前準備</p> <p>①大学の授業（社会教育と生涯学習・社会教育演習）との関連性の把握</p> <p>②文献・インターネット等による岡垣町の情報収集</p> <p>③自治体・住民との打ち合わせと活動計画の企画</p> <p>2 岡垣町でのフィールドワーク</p> <p>3 記事の作成</p> <p>4 新聞の編集・レイアウト・校正</p> <p>5 毎日新聞社・西日本新聞社の取材への対応</p> <p>6 学生の本活動に関する振り返り（アンケート調査・インタビュー）</p> <p>3. 効果</p> <p>①学生：市民性（シティズンシップ）の涵養</p> <p>②岡垣町：地域活性化・まちづくりの進展</p> <p>③大学：知（地）の拠点としての役割</p>	
今後の改善内容及び展開	創刊号に引き続き今回の第二号においても岡垣町の魅力を再発見するというテーマに沿って新聞づくりをした。次年度はテーマを近代に求める予定。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町 事業名：「岡垣学の構築」（岡垣学Ⅰ）	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》 093-693-3403
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町役場
	責 任 者	《職・氏名》企画政策室企画政策係長 早川篤志 生涯学習課主任 下川航也
	連 絡 先	《電話番号》093-282-5767
事業実施日・回数	4月～11月 《計10回》	
実施場所	岡垣町（岡垣町に所在する公共施設を借用）	
参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部8名	
経 費	特別研究費	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 岡垣町の住民に郷土の素晴らしさを再認識してもらい町に愛着と誇りを持って住民自らが町の良さをPRしたくなるような魅力を発信する媒体として岡垣学を構築する。今年度は「岡垣学Ⅰ」とし3か年をかけて完成させる。</p> <p>2. 実績 今年度は「岡垣学Ⅰ」とし同町に伝わる習俗や言い伝えについて「岡垣町史」、同町教育委員会発行の「岡垣町伝承民話集」、岡垣歴史文化研究会発行の「木綿間」等を基に、小中学生にも読みやすいように編集した。</p> <p>内容は以下の通りである。</p> <p>※ムラのならわし</p> <p>①ムラの一生</p> <p>②ムラの習俗</p> <p>※ムラの言い伝え</p> <p>①ムラの民話と伝承</p> <p>②生活の中の知恵</p> <p>3. 効果</p> <p>①学生：市民性（シティズンシップ）の涵養</p> <p>②岡垣町：地域活性化・まちづくりの進展</p> <p>③大学：知（地）の拠点としての役割</p>	
今後の改善内容 及び展開	次年度は郷土に伝わる郷土・伝統料理、現在の岡垣自慢の食材を使用した料理、岡垣町の誇る名水等「食」をテーマに特集する予定である。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町 事業名：学生のサービス・ラーニングを活用した人権意識調査の実施・分析	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》 093-693-3403
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町役場
	責 任 者	《職・氏名》教育委員会 教育総務係長 山田貴志
	連 絡 先	《電話番号》093-282-5767
事業実施日・回数	4月～11月 《計10回》	
実施場所	岡垣町	
参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部8名	
経 費	特別研究費	
事業目的・内容等及び実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>人権意識はすべての教育活動の基盤である。岡垣町の小学校（5校）、中学校（2校）の各5学年、2学年の全児童・生徒を対象に人権意識調査を実施し、人権教育の実践に参考になる報告書を作成して提供することにより、同町の人権教育の充実に貢献した。</p> <p>2. 実績</p> <p>学生が行政のサポートのもと小・中学校において人権意識調査を実施した。学生が人権意識に関する地域社会のニーズを把握し、その意識を分析整理して行政に報告した。報告書を作成し小・中学校での人権教育の授業で活用できるように印刷物として提供した。なお学生の具体的な活動概要は以下の通りである。</p> <p>①人権に関する学習会（調査・分析をするための事前学習）</p> <p>②人権意識調査の実施</p> <p>③調査結果を入力して得たデータを基に分析作業を実施</p> <p>④分析作業を基に報告書を作成</p> <p>3. 効果</p> <p>参加学生（教職希望の学生が多数）は現実の教育現場で得た調査データを基に分析しより良い人権教育への取り組みを通し貴重な体験をした。地域においては教育の基盤である人権教育の推進のための資料を得たことで新たな気づきに繋がった。大学においては、知（地）の拠点としての存在を示した。</p>	
今後の改善内容及び展開	次年度は今回の報告書を基に課題として明らかになった人権意識項目の改善に資する授業案や資料を作成し、岡垣町に提供する予定である。	



「岡垣歴史新聞」を作成した学生たち



「岡垣学Ⅰ」を作成した学生たち



「人権意識調査分析報告書」を作成した学生たち

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町体育協会、岡垣町教育委員会 事業名：第14回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会 スポット講座「走り方レッスン」	
九州共立大学	担 当 者	粟谷 健礼
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3439
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町教育委員会
	責 任 者	《職・氏名》生涯学習課 公民館係 橋田 清美
	連 絡 先	《電話番号》093-282-0162
事業実施日・回数	4月 15日 《計1回》	
実施場所	岡垣町立内浦小学校 運動場	
事業対象者 参加人数	九州共立大学スポーツ学部 教員：2名（粟谷、辰見）、学生：4名 計6名 事業対象者：マラソン大会参加者（小中学生中心） 参加者人数：173名（ウォーキング大会・マラソン大会参加者410名）	
経 費	講師謝礼金・交通費支給	
事業目的・内容及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>包括的地域連携協定に基づく連携事業の一つとして、第14回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会にて、参加者に対してスポット講座「走り方レッスン」を実施した。</p> <p>マラソン大会に参加する児童が、走る際のポイントやトレーニング方法に触れることで、スポーツ動作を考え、今後のスポーツ活動を楽しく意欲的に行えるようにすることを目的とした。</p> <p>2. 実績</p> <p>173名の小中学生が参加した。</p> <p>3. 効果</p> <p>参加した小中学生は楽しそうにレッスンを受講し、見学していた保護者・関係者から「また来年も講座をしてほしい」という声があった。</p> <p>また、多数の小中学生を指導するという経験は、本学学生にとっても非常に貴重な経験となった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	来年以降も継続して実施する場合、毎年内容の変更が必要と考えられるため、事前に十分な検討が必要である。	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催： 岡垣町立内浦小学校 事業名： 体カテストの実施	
九州共立大学	担 当 者	青山 優子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》 093-282-0116
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 岡垣町立内浦小学校
	責 任 者	《職・氏名》 教頭 宮原
	連 絡 先	《電話番号》 093-282-0116
事業実施日・回数	5月18日・5月19日 《計 2 回》	
実施場所	岡垣町立内浦小学校	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部 名 計 7 名： 事業対象者：岡垣町立内浦小学校 1～6年生 合計 72 名 参加者人数：5月18日 指導教員1名 学生4名 5月19日 指導教員1名 学生3名	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>小学生体カテストの実施を通して、体カテストの実施法を熟知するとともに、子どもたちの身体や体カテストのデータを基にスポーツ学部生として研究に結びつける。研究内容は主に「環境」と「体カテスト」の関わりについてであり、結果を内浦小学校に報告する予定である。</p> <p>実施内容は新体カテストのうち上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、20mシャトルラン、ソフトボール投げ、50m走であった。</p> <p>2. 実績</p> <p>予定通り18、19日の2日間で体カテストを終えた。</p> <p>今回、現場における実践経験が豊富な学生を中心にメンバーを組んだので、大変順調にすすみ、特に20mシャトルランでは一人一人の子どもの様子を把握しながら適宜に伴奏に付き励ますなど、体育指導者としてよき姿が多々みられた。</p> <p>3. 効果</p> <p>若い学生の支援によって記録の向上が認められたと現場サイドからの感想があった。学生はやはり実践の場が何よりも学ぶこと多くあることに気づき、改善や反省など次回の取り組みについて意欲的である。</p>	
今後の改善内容 及び展開	現場における「体カテスト」の実施は、学生にとって有意義な学びが多々ある。今後一人でも多くの学生に呼びかけ経験させたいと思う。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町 事業名：楽しく筋カツ～九州共立大学教授に学ぶ筋力アップ講座～	
九州共立大学	担 当 者	森川 壽人
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3154
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町福祉課
	責 任 者	《職・氏名》高齢者支援係 岡垣町地域包括支援センター 保健師 松隈裕子
	連 絡 先	《電話番号》093-282-1211
事業実施日・回数	8月5日・8月6日・3月17日・3月18日 《計2×2回》	
実施場所	中央公民館・東部公民館（各2回）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部 2名 計 2名： 事業対象者：8月：中央（20名）、東部（22名） 3月：中央（20名）、東部（22名） 参加者人数：8月：中央（19名）、東部（19名） 3月：中央（29名）、東部（20名）	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>高齢者の筋力低下予防を目的とした自宅のできる筋力トレーニングの指導を行い、半年間の効果測定を行う。</p> <p>8月 a：高齢者の体力に関する講演 b：体力測定 c：貯筋運動の指導</p> <p>3月 a：体力測定 b：スクエアステップエクササイズの指導</p> <p>2. 実績</p> <p>体力測定のデータは1ヶ月以内に参加者に還元。</p> <p>3月の体力測定では全体的に体力の向上が見られているようであるが、現在岡垣町の担当者の方で統計分析中である。</p> <p>3. 効果</p> <p>参加者の感想として一様に「楽しかった」「今後も続けたい」「スクエアステップを定期的に行っているところを教えて欲しい」などの感想等が寄せられた。</p> <p>実績でも触れたが、全体的に体力の向上が見られているようである。</p>	
今後の改善内容 及び展開	今回は健康体力づくり事業財団が推進している「貯筋運動」とスクエアステップ協会の「スクエアステップエクササイズ」（いずれも指導には指導者資格が必要）を用いたが、今後は岡垣町独自の運動方法（岡垣方式）を展開していく計画である。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：(公財)岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団 事業名：サンリーアイこどもキャンプ ファイナル	
九州共立大学	事業責任者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060
連携機関	機 関 名	《機 関 名》(公財)岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団
	責 任 者	《職・氏名》館長(専務理事)渡辺 一郎
	連 絡 先	《電話番号》093-282-1515
事業実施日・回数	平成29年8月23日(水)～8月24日(木) 《計 1回》	
実施場所	岡垣サンリーアイ	
事業対象者 参加人数	九州共立大学教員：1名 九州共立大学学生3名 九州女子大学学生9名(アダプテッド・スポーツ研究部)	
経 費	講師謝礼金・交通費支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 子どもたちに、地域の文化・スポーツ拠点施設“岡垣サンリーアイ”をより一層親しんでもらい、文化・スポーツ活動のきっかけを創る“未来への懸け橋”事業。</p> <p>2. 実績 キャンプリーダーを花田が務め、小学校3年生以上の30名を5人の6グループに分け、各グループの班付スタッフとして学生が参画した。</p> <p>3. 効果 今年で最後となるサンリーアイこどもキャンプ ファイナルは、募集人数30名のところ3倍の90名の応募がある人気のキャンプとなっている。1回目から学生と共に参画させて頂いており、スタッフの方々と息もピッタリで良い連携事業となっていると感じる。岡垣サンリーアイの体育館にダンボールハウスを作って、そこに寝ると言うプログラムは子どもたちの創造性を高め、また視点を変えると防災教育の一環として今後に繋がる体験となることと考えられる良いプログラムである。1泊2日という短い時間だが、子どもたちの大きな成長の場に携われることで学生たちの学びも大きい。とても貴重な体験をさせて頂いている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	一番大事なことは、子どもたちを怪我なく元気に保護者の元にお返しすることだと考えます。学生たちも責任感を持って関わり、学生たちのマンパワーが社会の力となるようにこれからも頑張りたい	

《平成29年度 岡垣サンリーアイこどもキャンプFINAL》

九州共立大学スポーツ学部 2年 諸江 智大

初めて泊まりがけでのキャンプに参加させていただきました。今回のキャンプで自分の班の子どもだけでなく他の班の子どもともコミュニケーションを取ることができ、楽しく過ごすことができました。

ダンボールハウスでは子どもたちのユニークな発想やカレー作りでの協力して取り組む姿勢、何事にもチャレンジすることなど関心する事が多くありました。

またゆるきゃらのびわすけになることなどこれから先二度と経験することの出来ないことも体験でき良かったです。反省としては子どもたち自身で時間を守ることを意識させたり、人の話を聞く時はおしゃべりをしないでしっかりと聞かせるなど次に繋げていかなければならないこともありました。

これからももっと子どもたちとふれあえるようなボランティアに参加して行きたいです。

ありがとうございました。



ダンボールハウス



カレーづくり



みんなとっても仲良くなりました(^_^)



レクリエーションタイム



あっという間の1泊2日でした。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：遠賀郡スポーツ推進委員協議会（担当町：岡垣町） 事業名：遠賀郡スポーツ推進委員協議会 研究大会	
九州共立大学	担 当 者	山下 龍一郎
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》080-3398-6035
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町教育委員会
	責 任 者	生涯学習課 公民館係
	連 絡 先	《電話番号》093-282-0162
事業実施日・回数	9月2日 《計1回》	
実施場所	岡垣サンリーアイ	
事業対象者	事業対象者：スポーツ推進委員44名	
参加人数	参加者人数：44名	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>【目的】遠賀郡4町（岡垣・芦屋・遠賀・水巻）のスポーツ推進委員の資質の向上。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供に適した運動（年齢別）とその指導の仕方。 ・ 親子でできる体操やスポーツ ・ 運動好きな子供の育成方法 ・ 子供個々の運動能力の見つけ方・伸ばし方 <p>2. 実績</p> <p>スポーツ推進委員44名に対し、60分の講義と90分の実技指導を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>1年に数回実施されているスポーツイベントにおけるアイスブレイクや準備運動に導入したいという声を頂いた。</p>	
今後の改善内容 及び展開	実技内容については概ね満足して頂けたため、講義内容についてはより現場のニーズに即したものと改良を行いたい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29 年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町社会福祉協議会 事業名：障がい者クリスマス交流会	
九州共立大学	事業責任者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町社会福祉協議会
	責 任 者	《職・氏名》事務局長 高橋 賢志
	連 絡 先	《電話番号》093-283-2940
事業実施日・回数	平成 29 年 12 月 10 日（日） 《計 1 回》	
実施場所	いこいの里 団体研修室	
事業対象者 参加人数	九州共立大学教員：1 名 九州共立大学学生 3 名（アダプテッド・スポーツ研究部） 九州女子大学学生 11 名（アダプテッド・スポーツ研究部）	
経 費	講師謝礼金・交通費支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1、事業目的・内容等 障がい者のふれあい交流と社会参加の促進を目的に開催する。</p> <p>2、実績 学生たちがプログラムを企画し実践した。</p> <p>3、効果 地域連携室に岡垣町社会福祉協議会より初めて依頼がありました。毎年実施されているようであったが、マンネリ化しているので学生さんたちの柔軟な発想で「障がい者クリスマス交流会」を企画して欲しいとの依頼でした。アダプテッド・スポーツ研究部の学生が中心となり、日頃の体操教室の経験を活かし障がいを持った方たちも一緒に楽しめるプログラムの作成に努めた結果、みなさん積極的に参加して下さり会場が笑顔に包まれました。帰り際に、「楽しかった！」とたくさんの方からお言葉を頂き、学生たちの自信にも繋がったようです。岡垣町社会福祉協議会の方からも来年も是非来て下さいとのことでした。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>できれば、事前の打合せより学生が加わることができると良いと感じました。学生たちも責任感を持って関わり、貴重な経験をさせて頂きました。今後も学生たちのマンパワーが社会の力となるようにこれからも頑張りたい。</p>	

《平成29年度 障がい者クリスマス交流会》



みなさんとても楽しそうです☆



『ふれあい』をテーマにレクリエーションをしました(^_^)



ふうせんリレー

サンタさんからのプレゼント



12/10 (日)

集合：8：25

出発：8：30

場所：自由ヶ丘会館前

備考：紺ボロ・トレーナー集合

《プログラム》

○アダプテッドスポーツ研究部紹介 ○ダンス

○ふうふうゲーム ○ふうせんリレー

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町教育委員会 事業名：国内短期留学事業「ふれあい in SANADA」	
九州共立大学	事業責任者	篠原 純司
	所 属	地域連携推進センター所長
	実施担当者	橋本 チエミ
	所 属	地域連携推進センター
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3255
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町教育委員会
	責 任 者	《職・氏名》生涯学習課 安高 智洋
	連 絡 先	《電話番号》093-282-1211
事業対象者 参加人数	九州共立大学：ボランティア学生 スポーツ学部 2名 岡垣：小学5、6年生 15名 中学1、2年生5名 合計20名	
事業内容 実績及び効果	1. 事業目的・内容等 ホームスティを通して文化・環境の違いを知り、子ども達の相互の友好を育み、子どもだけでなく家族やボランティア等関わった大人も「ふるさと岡垣」を再認識し、愛町精神を育む。 2. 実績 結 団 式：10月7日（土）中央公民館 事前研修：10月14日（土）東部公民館 10月28日（土）～29日（日）海の中道青少年海の家 11月23日（祝）東部公民館 12月16日（日）東部公民館 本 研 修：12月23日（土）～12月28日（木）長野県上田市真田町 事後研修：1月20日（土）東部公民館 1月27日（土）東部公民館 2月4日（日）中央公民館 報 告 会：2月11日（日）中央公民館	
今後の改善内容 及び展開	本学学生が、小・中学生に接する対応は、とても評判が良かった。しかし、今後は岡垣町出身学生、日程等の検討が必要。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町 事業名：岡垣ウォーキング教室	
九州共立大学	担 当 者	山口恭平・疋田晃久
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3049
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町教育委員会
	責 任 者	《職・氏名》生涯学習課公民館係・橋田清美
	連 絡 先	《電話番号》093-282-0162
事業実施日・回数	3月3日 《計1回》	
実施場所	岡垣町民体育館	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部3名、スポーツ学部 3名 計 6名： 事業対象者：岡垣町民（50代～80代） 参加者人数：55名	
経 費	講師謝礼金・交通費支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>本事業は岡垣町が町民の健康の維持・増進を目的として実施するウォーキング教室の第3回目であった。毎回講師は変わっており、今回は岡垣長と協定を結んでいる本学の山口講師と疋田講師が教室の講師として招聘された。最初にウォーキングに関する基本的な知識について説明があり、その後、グループに分かれてウォーキングの仕方を実技を通して学んだ。最後に、ウォーキングの実践としてウォーキング・パシュートを実施し盛り上がる形で教室は終了した。</p> <p>2. 実績</p> <p>55名の町民の方に参加していただくことができた。6名の学生をアシスタントとして連れていったことにより、地域住民と学生が交流する機会を創出することができた。</p> <p>3. 効果</p> <p>参加者に「楽しく参加してもらおう」ことを目標としてプログラムを作成した。結果として、「楽参加者の方から「楽しかった」や「体を動かして気持ちよかった」、「次はいつ?」「若いエキスをもらえて良かった」といった感想をもらうことができた。ウォーキングプログラムの実践を通じて、地域住民の方々の満足感を高めることができたと言える。</p>	
今後の改善内容 及び展開	予定していたプログラムが時間どおりに進まなかったため、次回実施する際には、プログラム内容を整理したい。参加者は正しいウォーキングを学ぶだけでなく、参加者同士の交流や学生たちとの触れ合いを求めているように感じた。そこを次回に活かしたい。	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：岡垣町 事業名：「ボランティア交流会」	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》 093-693-3403
連携機関	機 関 名	《機 関 名》岡垣町役場
	責 任 者	《職・氏名》(地域づくり課 課長)武谷勝/(地域交流センター長)鳥谷幹二
	連 絡 先	《電話番号》093-282-5767
事業実施日・回数	3月18日 《計1回》	
実施場所	岡垣町 地域交流センター(福岡県遠賀郡岡垣町野間1-1-1)	
事業対象者 参加人数	事業対象者：岡垣町登録ボランティア団体の代表者 参加者人数：40名	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>岡垣町における登録ボランティア団体を対象にした交流会で、本学の学生がボランティア(岡垣学Ⅰ)の報告を通して町民の方々との意見交換を実施した。</p> <p>2. 実績</p> <p>内容は、以下の通り。</p> <p>Ⅰ はじめに(岡垣学Ⅰプロジェクトの概要、地域学とボランティア)</p> <p>Ⅱ 学生によるプレゼンテーション</p> <p>①ムラのならわし(ムラの一生、ムラの習俗)</p> <p>②ムラの言い伝え(民話と伝承)</p> <p>③ムラの言い伝え(生活の中の知識)</p> <p>Ⅲ 地域学(地元学)について/郷土を語り継ぐ民俗学</p> <p>①地域学とは</p> <p>②地域学とボランティア</p> <p>Ⅳ おわりに</p> <p>次年度の「岡垣学Ⅱ」作成協力をお願い</p> <p>3. 効果</p> <p>学生が岡垣学の構築についてプレゼンテーションしたことで、町民の方々に郷土の魅力を再発見する機会を提供できた。ボランティア団体も高齢化が進み、若い世代の活動を熱望している。学生の活動がボランティアのあり方に一つの処方箋を示せたのではないかと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	次年度は学生と町民有志の方の学習会を通して岡垣学Ⅱの作成にあたる予定であり、その報告を次年度の交流会で実施したいと考えている。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：北九州商工会議所、若松商店街連合会、若松区役所 「若松まちゼミ」への参画	
九州共立大学	担 当 者	末木将史
	所 属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3025
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州商工会議所若松サービスセンター
	責 任 者	《職・氏名》サービスセンター長、坂元龍児氏
	連 絡 先	《電話番号》093-761-2021
事業実施日・回数	9月16日・9月28日・10月11日・1月31日 他 《計 5回》	
実施場所	北九州市若松区	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部 2、3年生 事業対象者：3主体(商工会議所、区役所、商店街連合会) 参加者人数：経済学部2、3年生	
経 費	特別研究費	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>・「若松まちゼミ」の本番(H30開催予定)のプレリミナル版のレビュアーとして学生にまちゼミに参加してもらうこと。学生からまちゼミについての感想や提案などのフィードバックをまとめ、実施主体の事業に還元すること。</p> <p>2. 実績</p> <p>昨年度との違いは、①「まちゼミ」開催時期が昨年が11月であったのに対して本年は2月になったこと、②参加学生数が大幅に減少したこと、の2点。プレ版だったことにより受講可能なまちゼミの種類は少なかったものの、主催者側が関係各所に調整の労をとってもらったことにより実現ができた。参加学生数が少なかったことにより、学生立案企画ができなかったが、その分却って、学生内でのコミュニケーションは密に取れた。</p> <p>3. 効果</p> <p>学生には、①地域経済の現状と課題に関する事前レクチャー、②現地実踏・調査、③まちゼミ参加、の3プロセスにより地域経済や連携についての基本的素養を身に付けてもらうことができたと考える。主催者に対するフィードバックの在り方についても具体的に考えることができるようになった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	参加学生数の確保が必須。学生立案による「まちゼミ」の企画を実現し、地域貢献に欠かせられるよう、前期中から学生募集をする要あり。また、参加学生内部でのグループ作りやコミュニケーションの活性化に資する仕掛けづくりなどもする要あり。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：北九州商工会議所 「若松がんばろう会」への参画	
九州共立大学	担 当 者	末木将史
	所 属	経 済 学 部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3025
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州商工会議所若松サービスセンター
	責 任 者	《職・氏名》サービスセンター長、坂元龍児氏
	連 絡 先	《電話番号》093-761-2021
事業実施日・回数	毎月第1木曜日	
実施場所	北九州市若松区	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部 3年生 事業対象者：若松がんばろう会 参加者人数：リスナー不特定多数	
経 費	北九州市学研都市 FMひびきスタジオ	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 「若松がんばろう会」が提供する、「若松わいわいラジオ」の放送に参加し、15分の枠内で学生の身近な話題について放送した。</p> <p>「みなと祭り」は学生の試験期間等に重なったため、学生にはボランティアとしての自主的参加を募るにとどまった。</p> <p>2. 実績 主に3年生が主体となり、運営を担当したが、2年生への交代時期に当たっている。そのため、放送の実運営と併せて新規メンバーの募集を行った。</p> <p>3. 効果 学生への効果として、番組制作に関する知識、情報収集を行い、まとめる能力や企画力、関係各位との調整を通じたコミュニケーション能力の向上などである。</p>	
今後の改善内容 及び展開	学生の担い手を確保することが急務である。特にラジオは、単に学生の教育の場としてだけでなく、エリア内への大学広報活動としての意味合いもあるため、さらなる活発化を図りたい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：北九州商工会議所 事業名：大型クルーズ船の受け入れに伴う外国人客のおもてなし	
九州共立大学	担 当 者	末木将史
	所 属	経 済 学 部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3025
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州商工会議所若松サービスセンター
	責 任 者	《職・氏名》サービスセンター長、坂元龍児氏
	連 絡 先	《電話番号》093-761-2021
事業実施日・回数	6月16日・7月12日・7月15日・7月21日 《計 4回》	
実施場所	北九州市若松区	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部 2、3年生 事業対象者：3主体(商工会議所、区役所、商店街連合会) 参加者人数：クルーズ船乗員(50人前後)	
経 費	特別研究費	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型クルーズ船の乗員の若松市内観光を推進するための下記、諸事業 <ul style="list-style-type: none"> ①案内マップ作成・配布 ②英語・中国語による現地案内 <p>2. 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内マップに掲載する情報を収集するため、学生による現地調査 ・案内マップ作成。掲載文の英語訳、中国語訳実施 ・若松の恵比須神社にて乗員のおもてなし実施 <p>マップは初版ができたので、今後は改訂しながら更新していくこととなっている。来年度もクルーズ船のおもてなし事業の要請に対して日程等を勘案して協力の予定。</p> <p>3. 効果</p> <p>学生による積極的な行動を促すことを目的に、現地取材や文案作成、同翻訳など指示しつつ、完成まで誘導した。おもてなしも実施も、クルーズ船乗員に対して積極的にコミュニケーションを図るよう学生に促し、教育面の所期の効果を得られた。商工会議所および区役所からも好評価を得ることができ、平成30年度についても事業継続を要請されている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	参加学生数の確保が必須。マップ作成に関しても、取材、文案作成、マップレイアウト等に相応の人数の学生がそれぞれ必要。加えて、おもてなしにおいては、英語・中国語が話せる学生も確保する必要がある。	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：九州共立大学スポーツ学部 事業名：小学校におけるスクールヘルパー	
九州共立大学	担 当 者	青山 優子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》090-3079-4131
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州市立中原小学校
	責 任 者	《職・氏名》橋口 誠校長先生
	連 絡 先	《電話番号》093-881-3004
事業実施日・回数	29年5月～30年2月（休暇中を覗く） 週1回 《計 32 回》	
実施場所	北九州市立中原小学校 北九州市戸畑区中原3丁目1-1	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部 4 名 計 4 名： 事業対象者：中原小学校児童1年～6年 参加者人数：240名	
経 費	1回につき500円	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>本校において「小学校教員養成プログラム履修者及び小学校教育課程に関心のある学生を対象に、小学校教員の指導の下「小学校文化」に触れることを通して、学生の積極的な学習態度を養うと共に、様々な経験を通して学生自らが課題をみつけ意欲的に教員養成プログラム課程に取り組むことを目的とする。</p> <p>スクールヘルパーの主な内容は授業における援助と補助であり、その他体力測定実施運動会支援、地域活動の支援などである。他に昼休みの遊び指導も実施した。</p> <p>2. 実績</p> <p>授業補助や支援の経験を通して、学生の学び方について改善が観られる。また、学生の来校を待っている児童の存在は、教育者としての情動の育ちに繋がった。さらに、学生による体力測定の実施は高記録の結果で表れ、学生自身指導力に対する自信を得た。</p> <p>3. 効果</p> <p>第一は小学校教員を真剣に目指す学生が増えたことであり、目標に向かって学習意欲が向上した。現在は採用試験に向け準備中である。</p> <p>第二は「小学生の体力と生活習慣」についての卒業研究論文が、充実した内容となった。「結果」から「考察」においては、現場へ良い返しができた。</p>	
今後の改善内容 及び展開	中原小学校新任花田佳子校長先生より、平成30年度も継続を懇願されている。新たに新3年生からの問い合わせも受けており、今後も継続したいと考えている。内容や展開は29年度に殉じたいと思うが、詳細は校長先生と話し合いの後決定する。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29 年度	
主催・事業名	主 催：北九州市教育委員会 事業名：部活動外部講師派遣	
九州共立大学	事業責任者	篠原 純司
	所 属	地域連携推進センター所長
	実施担当者	橋本 チエミ
	所 属	地域連携推進センター
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3255
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州市教育委員会指導第二課
	責 任 者	《職・氏名》梅木 陽一
	連 絡 先	《電話番号》093-582-2367
実施場所	浅川中学校・折尾中学校・則松中学校・二島中学校・本城中学校・枝光台中学校	
事業対象者 参加人数	九州共立大学： ボランティア学生：経済学部 0 名、スポーツ学部 0 名 計 12 名	
経 費	謝金は 1 回 2,000 円、月上限 10,000 円	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 各競技で専門性も持つ学生が、近隣の中学校で部活動外部講師として指導にあたることから九州共立大学との連携事業を推進する。</p> <p>2. 実績 浅川中学校（バスケット部 2 名） 折尾中学校（サッカー部 3 名） 則松中学校（バスケット部 2 名・野球部） 二島中学校（野球部） 本城中学校（野球部 2 名） 枝光台中学校（バレー部 1 名）</p> <p>3. 効果 学生全員が将来教員を目指しており、中学生の学校での様子がよくわかり、また現場の先生方の動きなどを見聞きすることができ、参考になった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	10 名の枠があるため、条件の見直しや参加学生の募集が検討課題となる。 (交通費は学生負担、保険は北九州市教育委員会の負担)	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29 年度	
主催・事業名	主 催：北九州マラソン実行委員会 事業名：北九州マラソン 2018	
九州共立大学	事業責任者	篠原 純司
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	篠原 純司
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3255
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州マラソン実行委員会
	責 任 者	《職・氏名》会長 北橋 健治
	連 絡 先	《電話番号》093-582-2831
事業実施日・回数	2月18日（日）	
実施場所	北九州市内（スタート：北九州市役所前、フィニッシュ：北九州国際会議場前）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：競技役員 55 名（陸上競技部） 救護ボランティア AED 隊 20 名（学生トレーナー部 CARE）	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 本学の地域連携活動の一環として、北九州マラソンでのボランティア活動を実施する。</p> <p>2. 実績 本学、陸上競技部より学生 55 名が競技役員として、学生トレーナー部 CARE より学生 20 名が救護ボランティア AED 隊として参加した。また、各部の教員は学生の円滑なボランティア活動を支援した。</p> <p>3. 効果 学生は、ボランティア活動を通して地域との繋がりを体感する機会を得た。また、普段部活動として取り組んでいる陸上競技やトレーナー活動で培った知識や技術を地域社会の中で生かす貴重な学びの場でもあった。加えて学生を指導した教員にとっても、大学と地域との繋がりを強く感じる機会であった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>今後は、上記のボランティア活動に限らず、北九州マラソンに関する様々な活動により多くの学生が参加するのを望む。</p>	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：堀川まちおこし実行委員会 事業名：第16回堀川いっせい清掃	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利 (ちょボラ部部长)
	所 属	経済学部
	実施担当者	樋口竜一郎、中野航希、周鈺淇 (シュウ・ギョクキ)
	所 属	経済学部4年、3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》堀川まちおこし実行委員会 (構成団体：八幡西区、中間市、水巻町)
	責 任 者	《職・氏名》八幡西区役所区次長・梅本浩史
	連 絡 先	《電話番号》093-642-1441 (八幡西区役所コミュニティ支援課) 《E-mail》yasuyuki_okumura01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数	7月19日(水)・9月20日(水)・9月27日(水)・10月1日(日)《計4回》	
実施場所	折尾商連、丸和ビル4F 会議室、堀川 (折尾地区)	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部 (日本人学生、中国人留学生)・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：20名 (顧問2名、参加部員18名 (うち留学生6名))	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>堀川いっせい清掃は、①堀川の大切さを多くの人と共有する、②ふるさとを愛する心をはぐくむ、③モラルとマナーを向上させ、堀川をきれいな川に再生させるという3つのスローガンのもと実施される地域イベントである。清掃活動を通じてふるさとの自然やまちを愛する心を広げ、地域の環境に対する意識の向上を図っている。折尾地区参加団体として、ちょボラ部は川中と川上の清掃を行った。</p> <p>2. 実績</p> <p>10月1日(日)、第16回堀川いっせい清掃に、ちょボラ部の学生18名と顧問の教員2名が参加した。8時30分にNTT 横道路予定地に集合した後、9時から、堀川下流 (B班)として、JR折尾駅東口からくぐり橋まで、実際に堀川の中に入り、清掃を行った。当該イベントに参加したことにより、ちょボラ部員同士による地域の環境に対する意識の向上が図られると共に、日本人学生と中国人留学生の国際交流も図ることができた。その後のミーティングでは、本活動を今後も継続的に実施することを確認した。さらに、ちょボラ部の今後の本活動のあり方にまで議論が進んだ。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学学生にボランティア活動への参加経験を積ませると同時に、地域社会との連携や交流を推進した。本学のカリキュラムポリシーで育成を図っている、両学部共通のコミュニケーション能力や経済学部の実践力の向上、スポーツ学部の協調性や社会性の涵養など、自律・自立できる社会人としての基礎固めが促進された。また、中国人留学生にとっては新鮮な経験であり、日本文化への理解と関心が高まった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	新入部員の勧誘を強化し、次年度以降も引き続き参加することでボランティア活動への参加実績をあげると共に、地域への愛着心を高める。	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		29年度
主催・事業名		主 催：九州共立大学学友会ちょボラ部 事業名：シンポジウム「第2回 水と緑とまちおこし」
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利（ちょボラ部部長）
	所 属	経済学部
	実施担当者	中野航希、中原涼香、栗原啓輔
	所 属	経済学部3年、2年、1年
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》堀川まちおこし実行委員会（構成団体：八幡西区、中間市、水巻町）
	責 任 者	《職・氏名》八幡西区役所区次長・梅本浩史
	連 絡 先	《電話番号》093-642-1441（八幡西区役所コミュニティ支援課） 《E-mail》yasuyuki_okumura01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数	毎月第3火曜日、平成30年2月17日（土） 《計11回》	
実施場所	レンタルスペースドルフィン、九州共立大学自由ヶ丘会館4F 多目的ホール	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：20名（顧問2名、参加部員18名）	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>本シンポジウムは毎年、ちょボラ部部員がアンケート調査を行い、その分析結果と共に、まちおこしに対する提言・提案を研究発表として行うというものである。このシンポジウムは、第1部が現在でも第一線で活躍している実務経験者や学識経験者による講演、第2部がちょボラ部員による研究発表という構成で実施されている。このシンポジウムの特長のひとつは、ちょボラ部員が企画・運営を行う点である。</p> <p>2. 実績</p> <p>平成30年2月17日（土）に開催のシンポジウム第1部では、第1講演として、前衆議院議員の緒方林太郎氏から「地域活性化について、地域や大学は何かができるのか」について、第2講演では、日本企業経営学会会長・東海学園大学名誉教授の西田安慶氏から「地域活性化について、折尾地区ではどのように取り組めばよいのか」について、講演していただいた。第2部では、ちょボラ部員が「まちおこしへの関心の有無とどのようなまちにしたいかの関係」、「職業とどのようなまちにしたいかの関係」「回答者が考えているまちおこしのための必要条件」について分析結果を発表して、最後に提言・提案を行った。その後、活発な意見交換や質疑応答が行われた。これらの内容は、平成30年2月27日の西日本新聞朝刊27面に掲載されている。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学学生にシンポジウム開催のための企画・運営の経験を積ませると同時に、地域社会との連携や交流を推進した。本学のカリキュラムポリシーで育成を図っている、両学部共通のコミュニケーション能力や経済学部の実践力の向上、スポーツ学部の協調性や社会性の涵養など、自律・自立できる社会人としての基礎固めが促進されたと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	シンポジウム開催も2回目ということで企画どおり運営された。しかし、情報発信方法については例年課題となっており、シンポジウム参加者はまだまだ少ない。より専門的な知識と技術を習得させ、今後に備える考えである。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：八幡西区（紹介） 事業名：脳活性化教室修了者への介護予防支援	
九州共立大学	事業責任者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	樋口 行人・藤崎 道子（非常勤）
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3313
連携機関	機 関 名	《機 関 名》八幡西区役所保健福祉課
	責 任 者	《職・氏名》地域包括支援センター担当係長 原田めぐみ
	連 絡 先	《電話番号》093-642-1441（480）
事業実施日・回数	5月11日・7月13日・9月14日・11月9日・ 1月11日・3月8日《計6回》	
実施場所	大原市民センター	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：講師2名（1名非常勤） ボランティア学生：経済学部 0名、スポーツ学部 2名 計 2名 事業対象者：区民（脳活性化教室修了者） 参加者人数：12名	
経 費	交通費・謝金（藤崎先生）：研究費	
事業内容 実績及び効果	1. 事業目的・内容等 脳活性化教室（これ自体は行政の事業と思われる）修了者が自発的に集まっている勉強会「希望の会」（12名で活動）にて、運動を中心とした介護予防支援を実施する。運動のみならず、食事等も含めて広く介護予防につながる内容とする。 2. 実績 1回目5月11日（木） シナプソロジー 2回目7月13日（木） 歩行運動 3回目9月14日（木） 骨盤体操（藤崎先生） 4回目11月9日（木） 座位体操 昨年度同様3月に学生参画予定。 3. 効果 出席状況はまちまちであるが、来ることによって住民同士つながりもできているのではないと思われる。運動教室ではなく普段は詩吟等を行っているため、痛いのでできないと言われることもあるが、それなりに運動効果が出ているのではないと思われる。参画学生の成長の場となっている。	
今後の改善内容 及び展開	参画学生が現場の実状を知れる機会として活用したい。そのために別紙の如く日本調剤株式会社との運動メソッド開発を行っている。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：経済学部 事業名：ワークショップA（セパレート方式）	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利
	所 属	経済学部
	実施担当者	梅田 勝利
	所 属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》就労継続支援B型事業所 ワークなごみ
	責 任 者	《職・氏名》理事長・吉田直子
	連 絡 先	《電話番号》093-383-5172 《E-mail》work_nagomi@view.ocn.ne.jp
事業実施日・回数	11月4日（金）・11日（金）・18日（金）・25日（金）《計4回》	
実施場所	就労継続支援B型事業所 ワークなごみ	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部1年 事業対象者：ワークショップA（セパレート方式）受講者 参加者人数：3名	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>就労継続支援B型事務所 ワークなごみにて、障がい者就労支援事業に参加した。学生は主に利用者の仕事を体験した。仕事は太陽光発電や物置など、屋外に設置する建築物のボルトセットの組み立てなど、3つである。ワークショップAは、1年次という早い時期からイベント企画や実際の運営に携わるなど、社会体験を増やすために用意した参加型講義（アクティブ・ラーニング）のひとつである。地域貢献・連携をテーマに用意されたプロジェクトから複数選択し、課題解決の意識を学ぶ機会を提供している。例年通り今回も本事業では、施設利用者の自立支援事業について、経済学および経営学の観点から、その意義について考察することをねらいとした。</p> <p>2. 実績</p> <p>前年度同様に、ワークなごみ生活指導員の吉田元貴氏を本学経済学部にお招きし、事業内容の打ち合わせだけでなく、障がい者福祉サービスについても話を伺った。当日は運営スタッフとして、ワークなごみのスタッフと連携し、施設利用者の現状と課題について考察した。その結果として、現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図ることができ、知識・技術の習得・活用について学ぶことができたと考えている。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成することに対して、非常に効果があったものとする。また、地域貢献に関する意識の向上も図れたと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	現状を把握する能力、課題発見能力、コミュニケーション能力の育成は概ね図れたと考えている。その成果については、本年度の授業内において、本イベントの現状と課題及び学生の視点からの提案の2点について、報告してもらった。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：九州共立大学スポーツ学部・日本調剤株式会社 事業名：運動メソッド開発及び実施	
九州共立大学	事業責任者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	樋口 行人・藤崎 道子（非常勤）
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3313
連携機関	機 関 名	《機 関 名》日本調剤株式会社
	責 任 者	《職・氏名》薬剤本部 薬剤管理部 管理課長 皆川絃美
	連 絡 先	《電話番号》03-6810-0822
事業実施日・回数	現場実践 10月26日・11月15日《計2回》 開発 店頭モニターで流すDVD「ロコモティブシンドローム予防体操」作製中	
実施場所	日本調剤久留米薬局・日本調剤高取薬局（現場実践）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：講師2名（1名非常勤） ボランティア学生：経済学部 0名、スポーツ学部 2名 計 2名 事業対象者：市民（薬局店舗顧客） 参加者人数：20名（現場実践延べ）	
経 費	交通費・謝金（藤崎先生）：研究費	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>健康・スポーツ科学の知識と技術を通し連携・協力して、運動メソッドを開発・実施することによって、相互及び地域の発展と人材の育成等（学生教育含む）について、将来に亘り寄与することを目的とする。日本調剤健康イベントへの参画と、店頭モニター用運動DVDの作成を行う。</p> <p>2. 実績</p> <p>現場実践 10月26日（木） 久留米薬局 11月15日（水） 高取薬局（学生参画）</p> <p>開発 1月13日（土） 撮影ロケハン（学生参画）（予） 1月30日（火） 撮影（学生参画）（予）</p> <p>3. 効果</p> <p>地域包括ケアの流れからも、運動をしない人、興味のない人への教育が重要である。薬局店舗での健康イベント実践は、そのターゲット層に影響を及ぼしたと思われる。参画学生の成長の場となっている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	参画学生がDVDに出演するのみでなく、現場で活用する機会を設けたい。脳活性化教室修了者への介護予防支援事業での実施を計画している。	

九州共立大学スポーツ学部協力
 筋肉・骨・関節 を鍛える体操

 日本調剤 高取薬局

ロコモ対策

「簡単」「わかりやすい」「楽しい」運動で健康寿命をのばしませんか？



11月15日(水)
14:00~15:00
参加費無料!
(当日参加可)

ロコモって何??

ロコモティブシンドロームとは
 骨や関節、筋肉などの機能の衰えが
 原因で、日常生活に障害をきたしている
 状態の事です。

★ ロコモチェックで自己診断!

1		片脚立ちで 靴下がはけない	チェック欄 <input type="checkbox"/>
2		家の中でつまずいたり 滑ったりする	チェック欄 <input type="checkbox"/>
3		階段を上るのに 手すりが必要である	チェック欄 <input checked="" type="checkbox"/>
4		家のやや重い仕事が 困難である (掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)	チェック欄 <input type="checkbox"/>
5		2kg程度の買い物をして 持ち帰るのが困難である (1リットルの牛乳パック2個程度)	チェック欄 <input type="checkbox"/>



参加者にプレゼントを
 ご用意!!

※味はお選びいただけません

薬剤師による 健康相談

(血圧測定、サプリメント相談など)

承ります。



日本調剤 高取薬局

TEL:092-852-7201

FAX:0120-72-7013

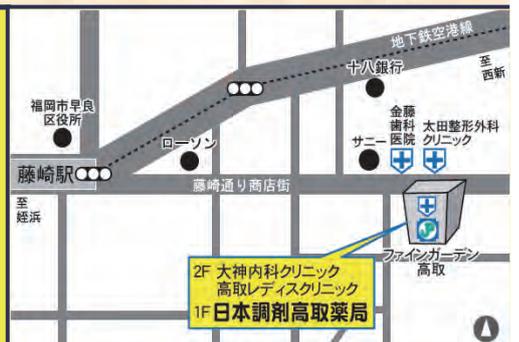
住所: 福岡市早良区高取1-3-20

営業時間: 月水金9:00~19:00

火木土9:00~18:00

定休日: 日祝日

参加希望の方は
 お電話または
 当薬局スタッフに
 お声掛けください。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：北九州市（北九州ゆめみらいワーク運営事務局、 事業受託会社：株式会社BBDO J WEST） 事業名：北九州ゆめみらいワーク2017～ミライをえらべ～	
九州共立大学	担 当 者	大川内夏樹 金子研太 吉田友紀 大和裕美子
	所 属	経 済 学 部
	連 絡 先	《電話番号》 093-693-3175/内線：408 （大川内）
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州市（北九州ゆめみらいワーク運営事務局 事業受託会社：株式会社BBDO J WEST）
	責 任 者	《職・氏名》園淳平 桑野拓也
	連 絡 先	《電話番号》093 - 551 - 3881
事業実施日・回数	8月25日・8月26日 《計 2 回》	
実施場所	西日本総合展示場 新館（北九州市小倉北区浅野3-8-1）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 経済学部 教員：4名、学生：5名（会場設営・展示サポーターとして）、入試広報課：5名 計14名 約86人（中学生、高校生、大学生、保護者、教員など）	
経 費	5万円	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>昨年ひきつづき、北九州市が主催する「北九州ゆめみらいワーク」に出展した。企業、団体約80社、大学、短大、専門学校等約40校が出展するこのイベントでは、10のキーワードごとに、企業・大学・短期大学・専門学校のブースが設置されており、大学・短大等は、ゼミ体験などを紹介し、その面白さや魅力、学びの重要性を伝えることをその内容としていた。</p> <p>本学経済学部は出展テーマを「実践！ゲーム理論—経済学部ゼミ体験—」とし、相手を予測して最適な戦略を決めるゲーム理論を実践的に学ぶゼミ体験を通して、高校生が興味をもって経済学を体験し、かつ本学経済学部の魅力を感じてもらうことをねらいとした。</p> <p>2. 実績</p> <p>出展事業：企画・事前打ち合わせ会議 計11回 *会議参加者：九州共立大学教員1名、入試広報課職員1名（2回） 九州共立大学教員1名、入試広報課職員2名（1回） 九州共立大学教員2名、入試広報課職員1名（1回） 九州共立大学教員4名（4回）3名（1回）2名（2回）</p> <p>3. 効果</p> <p>高校生を中心とした来場対象者に対して、経済学部のゼミ体験（「ゲーム理論」を利用したゲーム）、パネル展示、大学紹介動画の上映を通じて、九州共立大学経済学部の魅力や学生生活の様子について伝えることができた。</p>	
今後の改善内容 及び展開	ブース来場者数を増やすために、ブース内でのイベント内容を示す大きめのポスターや看板を準備する等、会場内での宣伝活動を充実させる。展示するパネルは、文字中心のものではなく、学生生活や学内施設の様子が具体的にわかる写真を中心とするものにする。記録用の写真を多めに撮影する。	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：九州共立大学ちょボラ部・学園&地域交流ネットワーク 事業名：地域交流事業	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利（ちょボラ部部長）
	所 属	経済学部
	実施担当者	北郷直人、樋口竜一郎、中野航希
	所 属	経済学部4年、3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》学園&地域交流ネットワーク
	責 任 者	《職・氏名》代表 蒔田加代
	連 絡 先	《電話番号》090-2710-6810 《E-mail》kayo-myuzu@nifty.com
事業実施日・回数	毎月第3火曜日 《計10回》	
実施場所	レンタルスペースドルフィン	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：ちょボラ部員、顧問4名	
経 費	年会費 2,000 円/人（顧問のみ）	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 「学生の集まるまち」を目指した折尾のまちづくりについて協議し、各方面に働きかける。今年度は、地域交流事業として、ちょボラ部と学園・地域交流ネットワークが共同して、レンタルスペースドルフィン（福岡銀行折尾支店そば）を、地域交流の拠点として、多世代・地域交流に重点を置いて、地域貢献・連携活動を行った。</p> <p>2. 実績 毎月第3火曜日にミーティングを行い、毎回現在および今後の①ボランティア活動、②産学官連携活動、③地域貢献・連携活動について議論した。①では、黒崎商店組合連合会主催のイベント「黒崎こども商店街」などについて取り上げた。③では、第16回堀川いっせい清掃などを取り上げた。また、レンタルスペースドルフィンを地域交流の拠点とするための議論が前年度同様行われ、今後の活動のあり方についてまで、活発な議論が展開された。</p> <p>3. 効果 当初、ちょボラ部員は多世代・地域交流に困惑したようだったが、次第に積極的に発言、質問や提案をするようになり、各自が役割と責任を理解し、会議も順調に進められるようになってきた。ときには、学園・地域交流ネットワークの方々と、質問や意見を交わし、活発な議論を展開したり、食事会を開催したりした。魅力のあるまちづくりを目的とした、地域貢献・連携活動が軌道に乗り始めた。主体性の育成、傾聴力の向上などに有効であったと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	ちょボラ部は、昨年度から本格的に組織として活動を始めたこともあって、大幅な部員の増加となり、分掌を決めたものの、まだ非効率な点が多い。来年度は、効果的かつ効率的な活動を目指す。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：JR九州 事業名：JR九州ウォーキング	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利（ちょボラ部部長）
	所 属	経済学部
	実施担当者	中野航希、三好智高、森田暢
	所 属	経済学部3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》JR九州
	責 任 者	《職・氏名》折尾駅長・山口和浩
	連 絡 先	《電話番号》093-691-0024 《E-mail》ka.yamaguchi@jrkyusyu.co.jp
事業実施日・回数	5月13日（土）、10月21日（土）、2月18日（日）《計3回》	
実施場所	JR西小倉駅（5月13日）、JR水巻駅（10月21日）、JR遠賀川駅（2月18日）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部員 参加者人数：10名	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>JR九州が主催するイベント「JR九州ウォーキング」に参加した。ちょボラ部員が参加したのは「芦屋基地航空祭にブルーインパルスを見に行こう!!」（2月18日）などである。今年度は新たにコース開発も行った。そのコースは2018年6月3日のコース「九州共立大学学生による折尾の町並みを楽しむコース!」である。本事業は公共性・公益性が高い企業において、ボランティア活動を行うという産学連携活動であり、地域貢献活動である。JR九州が県内の大学と連携してJR九州ウォーキングというかたちを通じて、地域貢献活動を行うのは本学が初めてということもあり、その活動の継続をお互いが期待していることから、今後も当該事業に積極的に関わっていくことが期待できると共に、参加した学生のイベント企画・運営力の育成を図った。</p> <p>2. 実績</p> <p>前年度のワークショップAと同様に、JR折尾駅山口和浩駅長、水摩圭祐副駅長を本学経済学部にお招きし、イベントの打ち合わせだけではなく、企画・運営の方法についても話を伺った。当日は運営スタッフとして、JR九州の当日スタッフと連携し、イベント参加者との交流を積極的に図った。その結果として、現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図り、知識・技術の習得・活用について学ぶことができたと考えている。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成することに対して、非常に効果があったものと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	ちょボラ部員が大幅に増員したことから、ウォーキングコース開発を目的として、2チームを編成して本事業に取り組んだ。今後はこの経験を活かして様々な商品開発に取り組みたいと考えている。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：福岡県警察・折尾警察署 事業名：サイバーパトロールモニター	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利（ちょボラ部部長）
	所 属	経済学部
	実施担当者	中野航希、笹栗秀平、中原涼香
	所 属	経済学部3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》福岡県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課
	責 任 者	《職・氏名》サイバー犯罪対策課 警部補・龍頭篤史
	連 絡 先	《電話番号》092-641-4141（サイバー犯罪対策課） 《E-mail》cyber@police.pref.fukuoka.jp
事業実施日・回数	9月15日（金）、11月19日（日）《計2回》	
実施場所	本学自由ヶ丘会館（委嘱式：9月15日）、福岡工業大学（交流会：11月19日）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部部員 参加者人数：12名	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>本事業は、福岡県警察から、サイバーパトロールモニター（学生防犯ボランティア団体）として委嘱され、研修会および交流会に参加、インターネット上をパトロールした。サイバーパトロールモニターは、インターネット上の違法・有害情報の発見・流通を防止する活動であり、悪質なサイトについてはインターネット・ホットラインセンターに通報するという活動である。インターネット利用者が安全で安心して利用できるサイバー空間を実現するという重要な役割を担っていることになる。交流会では、サイバーパトロールモニターを委嘱されている、他の6大学（西日本工業大学・久留米工業大学・福岡工業大学・福岡大学・近畿大学・熊本学園大学）と共に、それぞれの活動報告を行い、活動活性化に向けて意見交換を行った。</p> <p>本事業は、官民一体となって大学生がボランティア活動を行うという、産学官連携活動であり、地域貢献活動であると認識している。</p> <p>2. 実績</p> <p>ワークショップAと同様に、福岡県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課 警部補・龍頭篤史氏、同課 巡査・牛島裕理恵氏、福岡県折尾警察署生活安全課防犯係長警部補・山口佳代氏に経済学部第一学舎までお越しいただき、本事業の打ち合わせをおこなった。委嘱式後の研修会は、自由ヶ丘会館多目的ホールで行われ、通報の方法を学ぶなど、非常に有益なものとなった。通報は各自が月1回を目安に行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成することに対して、非常に効果があったものと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	大学生が、安全安心の観点から、官民一体となってボランティア活動を行うことに関心を持たせるといった目的は果たせたと考えている。2018年3月22日（木）に、来年度の活動の委嘱式を行うなど、今後も継続的に本事業を行う予定である。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：黒崎こども商店街実行委員会・黒崎商店組合連合会 事業名：黒崎こども商店街2017	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利（ちょボラ部部长）
	所 属	経済学部
	実施担当者	中野航希、小谷川未来、基田聖弥
	所 属	経済学部3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》黒崎こども商店街実行委員会
	責 任 者	《職・氏名》熊手銀天街組合長・田中大士
	連 絡 先	《電話番号》090-4343-4636 《E-mail》taishi4636@gmail.com
事業実施日・回数	9月4日（月）、9月29日（金）、10月16日（月）、11月11日（日）《計4回》	
実施場所	コムシティ（事前打ち合わせ）、黒崎商店街	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部 事業対象者：ちょボラ部員 参加者人数：15名	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>黒崎こども商店街は、小学生を対象に商店街の実際の店舗に参加しながら、仕事や買い物を体験する職業体験イベントである。大人の仕事を体験することで、自主性を引き出し、その経験から自分に自信を持てるようになることをひとつのねらいとしている。当日は多くの店が黒崎商店街に並び、飲食店、飲食料点小売業、銀行業など、多種多様な職業を、小学生各自が選び、働き、報酬得て、それを使う喜びと達成感を知るという体験をするため、参加学生はそのボランティアスタッフを務めた。</p> <p>2. 実績</p> <p>11月11日（土）、「黒崎こども商店街」に参加した。7時に熊手銀天街に集合した後、9時から17時まで、コムシティ2階でハローワーク業務を担当した。小学生約1,200名を対象とした業務であったため、大変ではあったが、使命感・充実感・達成感などを得て、参加学生にとって非常に有益なものとなった。イベント終了後、すぐに、田中大士実行委員会委員長から、来年度以降についても継続的な協力要請が強かったことから、商学公連携活動としてよい活動ができていると考えている。</p> <p>3. 効果</p> <p>参加学生の使命感・充実感・達成感は、来年度への意気込みを感じさせる発言からも窺い知ることができる。また、ちょボラ部は多世代・地域交流活動の推進を目的のひとつとしているが、本事業はこれについても成果を得たと考えている。来年度は、協賛企業の開拓業務、参加小学生に対するアンケート調査・分析の実施など、渉外力の強化、PBLの導入を引き続き想定している。</p>	
今後の改善内容 及び展開	昨年度から取り組み始めた商学公連携活動であり、その経験を活かして、ちょボラ部員は活動したが、来年度に向けた改善点を報告する者が多かった。来年度は、昨年度および今年度の経験を活かして、継続して実施する予定である。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会実行委員会事務局 事業名：第14回北九州チャンピオンズカップ 国際車椅子バスケットボール大会	
九州共立大学	事業責任者	梅田 勝利
	所 属	経済学部
	実施担当者	梅田 勝利
	所 属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3211 《E-mail》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》公益社団法人 北九州市障害福祉ボランティア協会
	責 任 者	《職・氏名》事務局長・竹田英樹
	連 絡 先	《電話番号》093-882-6770 《E-mail》takeda@ksvk.jp
事業実施日・回数	事前研修会：10月22日（日）、10月28日（土）大会当日：11月11日（土）、12日（日）《計4回》	
実施場所	北九州市立総合体育館	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：経済学部 梅田ゼミ3年・2年 事業対象者：梅田ゼミの学生 参加者人数：9名	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>北九州市障害福祉ボランティア協会が共催するイベント「第14回北九州チャンピオンズカップ 国際車椅子バスケットボール大会」に参加した。学生が参加したのは事前研修会：10月22日、10月28日、当日ボランティア：11月11日、11月12日の4日である。ゼミナールⅠおよびⅢのシラバスにある、地域連携・地域貢献活動の一環として、また、問題解決型学習（PBL）の一環として、ボランティアスタッフを務めた。ワークショップAと同様に、イベント企画や実際の運営に携わるなど社会体験を増やすために用意された参加型講義（アクティブ・ラーニング）のひとつである。1年目となる今年度は課題発見能力の涵養を中心として能力向上に努めた。</p> <p>2. 実績</p> <p>事前に、酒井貴文コーディネーターを本学地域連携推進センターにお招きし、打ち合わせをした後、北九州市立総合体育館において、竹田英樹事務局長、酒井コーディネーターから、学生に対してイベントの打ち合わせだけではなく、企画・運営の方法についてお話を伺った。イベント当日は運営スタッフとして、大会の当日スタッフと連携し、イベント入場者との交流を積極的に図った。その結果として現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図ることができ、知識・技術の習得・活用方法について学ぶことができたと考えている。</p> <p>3. 効果</p> <p>本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成する、きっかけになったとして、非常に効果があったものと考えている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	現状を把握する能力、課題発見能力、コミュニケーション能力の育成は概ね図れたと考えている。その成果については、ゼミナールⅠおよびⅢの授業において、本イベントの現状と課題および学生の視点からの提案の2点について報告をしてもらった。来年度以降はその課題解決を目的として、継続的に参加する予定である。	



JR九州ウォーキング



サイバーパトロールモニター委嘱式



サイバーパトロールモニター交流会



サイバーパトロールモニター交流会



黒崎子ども商店街2017



第14回 北九州チャンピオンズカップ
国際車椅子バスケットボール大会

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29 年度	
主催・事業名	主 催： NPO 法人 香月・千代スポーツクラブ 事業名：香月・千代ジュニアスポーツ体験教室	
九州共立大学	事業責任者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	花田 道子・梨羽 茂
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060
連携機関	機 関 名	《機 関 名》香月・千代スポーツクラブ
	責 任 者	《職・氏名》香月・千代スポーツクラブ 陣内会長
	連 絡 先	《電話番号》093-619-0140
事業実施日・回数	5月20日・27日・6月3日・17日・24日・7月1日・8日《計7回》	
実施場所	香月小学校体育館・グラウンド及び畑キャンプ場	
事業対象者 参加人数	九州共立大学教員：2名 九州共立大学学生：15名 九州女子大学学生：20名 事業対象者： 15名（香月・千代スポーツクラブスタッフ） 参加者人数： 72名（小学生）	
経 費	交通費支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>北九州市市民文化スポーツ局スポーツ振興課からの依頼で、「小学校の児童を対象に、遊びの要素を持つ運動やオリンピック種目の体験を通じて、生涯にわたり運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う」ことを目的とした事業。</p> <p>2. 実績</p> <p>※5月20日の体力測定は、8：30～12：00、7月1日の体力測定は、9：30～12：00、7月8日の食育（アトドア）は9：30～13：00、それ以外は、10：00～12：00の2時間実施した。</p> <p>本学は、スポーツプログラムの企画・立案及び指導を担当した。</p> <p>3. 効果</p> <p>子どものコミュニケーション力を育むジュニアスポーツ体験教室として実施している。子どもたちに必要な能力の一つに、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」がある。しかし、一方で、子どものコミュニケーション力の低下が課題となっている。その理由として、年齢が異なる子ども同士で遊ぶ機会が少なくなったことや、親戚や地域の人など保護者以外の大人と関わる機会が少なくなっていることがあげられる。香月・千代ジュニアスポーツ体験教室では、毎週土曜日、「おはようございます！」と笑顔で子どもたちがやって来る。年齢が異なる子ども同士がグループとなり一緒に活動する中で上級生が下級生の面倒を見たり、一緒に頑張る姿が見受けられる。</p> <p>また、スタッフの学生やNPO法人香月・千代スポーツクラブのスタッフの方々との関わりから、友達関係をつくったり、維持していくのに必要なコミュニケーションのコツやスキルを学べる場となっている。学生たちにとってもスポーツ指導の現場を体験できる良い機会であり、スポーツ支援を通じた指導者育成の場となっている。</p>	
今後の改善内容 及び展開	7回と言う少ない実施回数の中、子どもたちの体力向上を目指したプログラム作りと指導学生の指導スキルの向上を目指し、今後も、総合型スポーツクラブとの連携を深めながら、北九州市の子どもたちの体力の向上及び健康づくりの促進に貢献したい。	

《平成29年度 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室》

九州共立大学スポーツ学部 4年 村上 和泉

運動教室は、普段小学生と共に活動する機会があまりない私にとって多くの事を学ぶことができた場となりました。小学生は中、高校生に比べてとても素直です。活動プログラムを心から楽しんでくれる子どもたちのキラキラした笑顔を見ると色々考えてきて良かったなと思いました。

また、小学生の体や身体能力の成長は著しく、出来ることの差が学年によって大きく変わってきます。その点を重視しながらプログラムを組んでいくことが大変でした。上手くいった点もあれば、考え不足だった点も多々ありました。今年の反省点は来年改善出来るように後輩達にしっかり伝えていきたいと思います。

この教室は、ボランティアの皆様、先生方、大学の仲間達、たくさんの方々のおかげで運営することができました。本当にありがとうございました。教室での体力測定の結果をしっかりとめて今後の活動等に繋げていきたいと思います。



開会式



準備体操



体力測定 (立ち幅跳び)



(体前屈)



○体力向上
プログラム

○アウトドア
クッキング

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：九州共立大学・九州女子大学アダプテッド・スポーツ研究部 事業名：知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」	
九州共立大学	事業責任者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060
連携機関	機 関 名	《機 関 名》ニコニコ体操教室
	責 任 者	《職・氏名》九州共立大学スポーツ学部 助教 花田道子
	連 絡 先	《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
事業実施日・回数	H29年5月13日～H30年3月3日 第2・第4土曜日開催月2回《計15回》	
実施場所	九州女子大学 錬成館1階ダンスルーム ・玄海少年自然の家「玄海の家」	
事業対象者 参加人数	九州共立大学教員：1名 九州共立大学学生10名・九州女子大学学生：40名 参加者人数：子ども40名（きょうだい児含む）	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 知的障がい児及び発達障がい児を対象とし、大学の施設及び知的財産を活用して実施している体操教室。この教室は大学生が、障がいを抱える子どもたちに対して、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした地域貢献活動。年に1回1泊2日のキャンプを実施している。</p> <p>2. 実績 月2回（土曜日）の体操教室を午前中（10：00～12：00）実施した。 福岡県立少年自然の家「玄海の家」にて1泊2日のキャンプを企画・運営した。 2月：「アダプテッド・スポーツ研究部」の活動を「九州キャンプミーティング」にて発表予定。 3月：子どもたちとのバス遠足を企画・運営予定</p> <p>3. 効果 子どもたちは、毎回の体操教室をとっても楽しみにしてくれている。学生たちがマンツーマンで子どもたちをサポートすることで、子どもたちはスポーツ活動を楽しむことができる。また、学生たちにとっても発達障がい児に対するスポーツ支援活動をとおして、コミュニケーション能力の改善と向上に寄与していることが考えられる。今年度中学校保健体育教員希望の学生が1名と小学校課程を希望している学生1名が現役で教員採用試験に合格した。そして、病院の中にある院内学級の教員に1名合格している。これから、多様な子どもたちのことを理解してあげられる先生として即戦力で活躍してくれることと思う。</p>	
今後の改善内容 及び展開	学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、北九州市の特別支援学校「小池学園」等と連携を深めながら、北九州市の障がい児の余暇支援としてスポーツをとおして、生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。	

《平成29年度 ニコニコ体操教室》

おあつまり



お天気の良い日はお外で運動



さまざまな運動遊びを取入れ
楽しく身体を動かしています。



みんな大好きな『ボールプール』



車いすで駆け抜けちゃうぞ～！



卓球バレー



クリスマス会



《平成29年度ニコニコ体操教室主催：ニコニコキャンプ》



スタッフトレーニング

おあつまり



みんなが『楽しめる』を目的に行っています(^_^)



動物とふれあいました

昼食は牛乳パックで『ホットドック』づくり



最後の挨拶では、人前ではほとんど喋らずにじっと立っていることが多いKでしたが、小さい声で話した時は子供の成長を感じました。色々な体験が出来て良かったです。 保護者感想

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：公益財団法人健康・体力づくり事業財団 事業名：健康運動指導士養成講習会【福岡会場】	
九州共立大学	事業責任者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3313
連携機関	機 関 名	《機 関 名》公益財団法人健康・体力づくり事業財団
	責 任 者	《職・氏名》事業部 浅海 清
	連 絡 先	《電話番号》03-6430-9113
事業実施日・回数	7月 20日 《計1回》	
実施場所	TKP ガーデンシティ天神	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：講師 1 名 ボランティア学生：経済学部 0名、スポーツ学部 0名 計 0名 事業対象者：講習会受講者 参加者人数：58名	
経 費	公益財団法人健康・体力づくり事業財団より支出	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 当財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動指導士」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。この度、養成講習会の講師として依頼を受けた。養成講習会テキスト第 15 章「栄養・食事アセスメント（低栄養対策含む）」の講習を 90 分間受け持った。</p> <p>2. 実績 パワーポイント、板書、ロールプレイを用いたため、興味を引けたと思われる。つつがなく行われ、事後の質問も活発で好評であった。今年度は本学卒業生の受講はなかった。</p> <p>3. 効果 福岡会場ということで、今後健康指導士となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。また、単発の講義にとどまらず、引き続きのネット学習システムの紹介、勧誘を行っている。今年度は講習会参加人数が少なかったにもかかわらず、ネット学習システムの申込は過去最多であった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	健康運動指導士育成は地域活性化にもつながると思われるので、講習会以外の部分でも協力していきたい。ネット学習システムもその一端であるし、本年度は別紙の如く単位認定講習「九州共立大学フィットネスセミナー」も行った。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：九州共立大学スポーツ学部 事業名：九州共立大学フィットネスセミナー	
九州共立大学	事業責任者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	樋口 行人・大下和茂
	所 属	スポーツ学部 スポーツ学科
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3313
連携機関	機 関 名	《機 関 名》公益財団法人健康・体力づくり事業財団
	責 任 者	《職・氏名》理事長 下光 輝一
	連 絡 先	《電話番号》03-6430-9111
事業実施日・回数	9月 9日 《計 1回》	
実施場所	九州共立大学スポーツ学部 B 館および福原学園屋内公認プール	
事業対象者 参加人数	九州共立大学：講師 2 名 ボランティア学生：経済学部 0名、スポーツ学部 1 名 計 1 名 事業対象者：講習会受講者 参加者人数：14 名	
経 費	保険料負担・教材費：研究費、謝金：なし（教員・学生とも）	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>このセミナーは、地域の運動指導者の知識・実践力の向上に寄与しようとするものであり、食事と運動を絡めた運動指導者のための講習会は少ないため、開設するものです。なお、健康運動指導士および健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として、講義 3 単位、実習 3 単位が認められます。（認定番号 176508）</p> <p>2. 実績</p> <p>最新機器を用いた実習（消費エネルギー）、食事選択演習を含めた講義（摂取エネルギー）と連続で行ったため、つながりがわかりやすく興味を引けたと思われる。事後の質問も活発で好評であった。本学卒業生が 4 名受講した。</p> <p>3. 効果</p> <p>健康・体力づくり事業財団の単位認定講習を大学主催で行う例は少なく、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。特に卒業生を取り込んでいるところが大きい。また、今年度は募集期間が短かったにもかかわらず 14 名の受講があり、期待の大きさもうかがえる。</p>	
今後の改善内容 及び展開	結果的に教員免許状更新講習よりも受講者が多く、健康フィットネスコースを持つ本学部としては続けていく価値がある。単位認定講習としてリピーターを取り込むつもりなら、セミナー内容を健康・体力づくり事業財団の養成プログラムに合わせた上で変更する必要がある。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催：北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 事業名：北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎研修 地域ふれあいコース	
九州共立大学	事業責任者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060
連携機関	機 関 名	《機 関 名》社会福祉法人北九州市社会福祉協議会 北九州シニアネットワークアカデミー穴生学舎事務課
	責 任 者	《職・氏名》北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 所長 日野 俊彦
	連 絡 先	《電話番号》093-645-6688
実施場所	北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 2階第2研修室	
事業対象者 参加人数	九州共立大学教員：1名 九州女子大学学生：1名（アダプテッド・スポーツ研究部） 参加者人数：24名	
経 費	北九州市職員研修所の基準により謝金。	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 北九州市では、高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進を目的に年長者研修大学校を設置し、各種講座を実施している。</p> <p>2. 実績 地域ふれあいコースの24名に対し、講義のテーマの『始めまして』仲間づくり～学びの環境づくり」を行った。</p> <p>3. 効果 はじめての場所に参加するとき「どんな人が来てるのかな」「ついて行けるかな」などドキドキする。そんなドキドキをあっという間に解消できるような仲間作りの手法を体験してみることを目的に、自分が自分らしく表現できるそんな環境づくり、仲間づくりを行った。</p> <p>学びを通じた、北九州年長者の健康づくり・生きがいづくりに貢献できた。 地元北九州市の年長者大学校穴生学舎との連携が促進された。さらに、本学の地域貢献に努めたい。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>学生をアシスタントとして参加させ、レクリエーションを実際に提供した。また、学生と一緒に活動することで参加者のみなさんにとっても喜んで頂くことができた。</p> <p>今後も、北九州市年長者大学校穴生学舎との連携を深めながら、北九州市の高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。</p>	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	29年度	
主催・事業名	主 催： 福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局青少年育成課 事業名： アンビシャス広場 運営スタッフ連絡会	
九州共立大学	事業責任者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060
連携機関	機 関 名	《機 関 名》福岡県人づくり・県民生活部
	責 任 者	《職・氏名》担当：安庭
事業実施日・回数	平成29年12月18日(月)・1月22日(月) 13:00~15:00 《計 2回》	
実施場所	筑後教育事務所・吉塚合同庁舎 〒812-8577 福岡市博多区東公園 7-7	
事業対象者 参加人数	九州共立大学教員：1名 九州共立大学学生：2名 参加者人数：筑後地域 30名 ・ 福岡地域： 40名	
経 費	交通費支給	
事業内容 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 アンビシャス広場運営の活性化・充実を図るために、広場運営スタッフに集まっていただき、連絡会を開催する。講師や事例発表者の話を聴き、また、スタッフ同士の意見交換を通して子どもたちのためにできることを考える。</p> <p>2. 実績 ○ 講演 「主体的に学び遊ぶ子どもを育てる支援について」</p> <p>3. 効果 ○指導者が現場に戻ってすぐに使えるスキルを伝授。 ○障害者スポーツを含むアダプテッド・スポーツへの関心が高まる。</p> <p>成果 ◇障害者スポーツを含むアダプテッド・スポーツに携わる人が増える。 ◇地域スポーツ指導者の資質向上による地域スポーツを支える人材の養成。</p>	
今後の改善内容 及び展開	学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、誰もが、いつでも、どこでもできるスポーツ活動の提供ができ、障がいを持っていても一緒に楽しむことができる活動ができる指導者の養成に貢献し、今後も市町村生涯スポーツ担当者の資質向上に向けた学習機会や情報の提供を行いたい。	

平成29年度講座実施報告

平成29年度に地域連携推進センターで開講された講座、個別専門講座6講座、市民講師講座3講座の合計9講座でした。各講座受講者の延べ人数は2,051名、登録者数は104名、受講者数は221名でした。

【公開講座】

平成30年3月31日現在

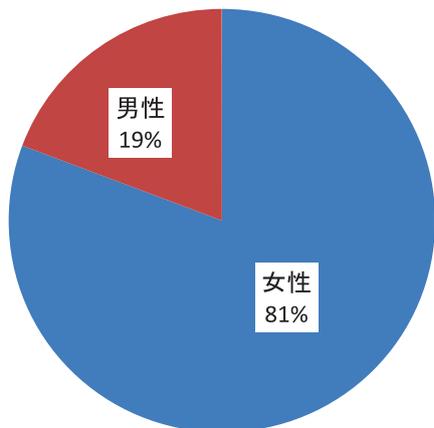
コース	NO	講座名	実施時期・回数	受講生数			担当講師
				男	女	計	
語学	1	パーカー先生と楽しく英会話 (昼コース)	5/9～7/25 毎週火曜日 11:00～12:30 12回	3	11	14	九州共立大学 非常勤講師 パーカー・アントニー・ジョン
			10/3～H30. 1/9 毎週火曜日 11:00～12:30 12回	3	11	14	
文学	2	『源氏物語』を読む ー浮舟・蜻蛉ー	5/10～7/19 毎週水曜日 10:50～12:20 11回	4	9	13	元九州共立大学 元九州女子大学 教授 武藤 昭廣
			10/4～H30. 3/14 毎週水曜日 10:50～12:20 14回 (最終日3月振替)	4	8	12	
芸術	3	書道講座 (実技編)	5/12～7/28 指定金曜日 13:00～14:30 10回	1	12	13	九州女子大学 准教授 古木 誠彦
			10/6～H30. 1/26 指定金曜日 13:00～14:30 12回	2	12	14	
	4	漢字のはなし	5/12～7/28 指定金曜日 10:30～12:00 3回	2	11	13	九州女子大学 准教授 古木 誠彦
10/6～H30. 1/26 指定金曜日 10:30～12:00 4回			2	11	13		
5	楽しく書く隷書	5/10～7/26 指定水曜日 10:30～12:00 12回	3	9	12	九州女子大学 准教授 大迫 閑歩	
		10/4～H30. 1/17 指定水曜日 10:30～12:00 12回	2	9	11		
スポーツ	6	「スポーツ吹矢」でリフレッシュ (健康教室)	5/6～8/5 指定土曜日 10:00～11:30 7回	4	10	14	九州共立大学 名誉教授 信田 よしの
			10/7～H30. 1/20 指定土曜日 10:00～11:30 8回	4	9	13	
“公開講座” 計				34	122	156	

【市民講師講座】

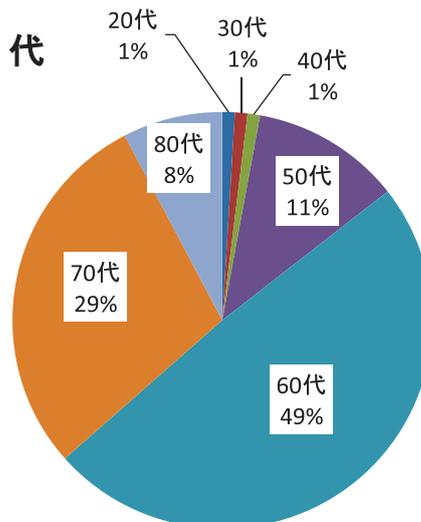
NO	講座名	実施時期・回数	受講生数			担当講師	
			男	女	計		
1	歌う喜び「世界の名曲」	5/10～7/26 第2・4水曜日 13:30～15:00 6回	0	15	15	元県立高校教諭 森 波子 (ピアノ 八代 真知子)	
		10/11～H30. 2/28 第2・4水曜日 13:30～15:00 7回 (1月休み)	0	14	14		
2	楽しく学ぶ切り絵(初級・中級)	5/19～7/21 第1・3金曜日 13:30～15:00 6回	3	7	10	切り絵作家・講師 小菅 績憲	
		10/6～H30. 1/19 第1・3金曜日 13:30～15:00 6回	3	5	8		
3	美しい韓国語	5/9～7/25 毎週火曜日 10:00～11:30 12回	1	9	10	韓国語講師 朴 淑子	
		10/3～H30. 1/30 指定火曜日 10:00～11:30 15回	1	7	8		
“市民講師講座” 計				8	57	65	
合計				42	179	221	

*受講生状況

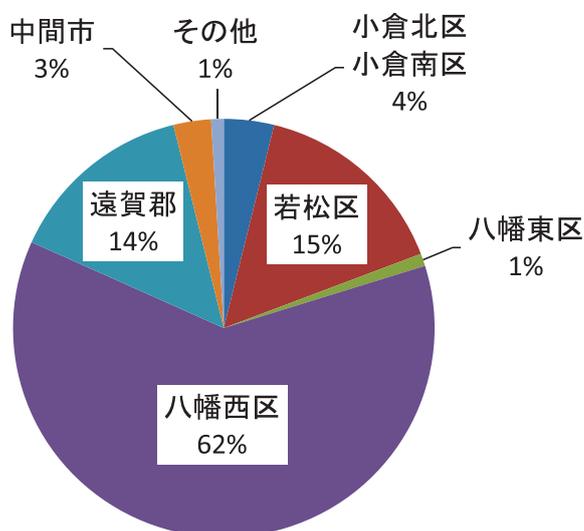
性別



年代



居住地



講座終了アンケート結果

【期間】平成29年5月～平成30年3月

- ・ 日常会話が多い教科書で練習したい。やや難しいけれど、楽しく受講しています。(パーカー先生と楽しく英会話)
- ・ 人の心の表現の豊かさに驚かされ、有意義に過ごせました。毎回とても楽しく受講しています。(『源氏物語』を読む)
- ・ 文字って面白いと思います。聞いて消化するのに時間がかかりますが。日本の漢字の歴史についての授業を期待していたので少々残念でした。興味をそそることが多く面白かった。(漢字のはなし)
- ・ 初心者の私にくらべて、かなりレベルの高い方もおられ刺激を受けました。先生の一人一人にあったアドバイスやユーモアのある指導で大変満足しています。実技だけでなく、歴史などいろいろな資料も準備していただき興味深く受講できました。(書道講座)
- ・ 毎回楽しく受講できました。もう少し回数を増やして受講したい。ほかの受講生とのコミュニケーションが楽しい。呼吸の訓練などとても体によいと思う。(スポーツ吹矢でリフレッシュ)
- ・ 難しいなりに楽しく受講いたしました。素敵な先生方と同じ趣味を楽しめる仲間と一緒に楽しい時間を過ごせました。(歌う喜び世界の名曲)
- ・ 毎回楽しく受講できました。切り絵の下絵も自分でできるようにしたい。(楽しく学ぶ切り絵)
- ・ 親切な指導で楽しく学べた。学校内で勉強の場をもっと作ってほしい。(美しい韓国語)

九州共立大学スポーツ救急法講座

九州共立大学と学生トレーナー（CARE）の協力で、スポーツ現場での救急法の基礎知識について無料講座を開講しました。

- 《対 象》 スポーツ指導者、教員、保護者、スポーツ現場での救急法について興味関心のある方
- 《参 加 費》 無料
- 《協 賛》 株式会社 明治
- 《講 師》 九州共立大学 スポーツ学部 教授 篠原 純司
- 《専門分野》 スポーツ障害・外傷、アスレティックリハビリテーション
- 《資 格》 米国BOC公認アスレティックトレーナー（NATA-ATC）など

◆「スポーツ現場での熱中症 ー予防と救急処置ー」◆

熱中症とはなにか、スポーツ現場における熱中症の予防対策、熱中症が起きた時の救急処置などについて学びます。

- 《日 時》 平成29年6月3日（土） 10:30～12:30（受付10:00～）
- 《場 所》 九州共立大学内 スポーツ学部B館 204号室
- 《参加者数》 55名

◆「スポーツ現場での突然死 ー心肺蘇生法と緊急対応計画の重要性ー」◆

あらゆる年代で起こりうるスポーツ活動中の突然死について学びます。また、AEDを用いた心肺蘇生法の実技もおこないます。

- 《日 時》 平成29年7月1日（土） 10:00～12:30（受付10:00～）
- 《場 所》 九州共立大学内 スポーツ学部B館 204号室
- 《参加者数》 58名

◆「スポーツ現場で起こる頭や首のケガについて ー脳しんとうを中心にー」◆

スポーツ活動中の頭や首のケガはどのように起こるのか、脳しんとうの症状とはなにか、何に気を付け、どのように対応すべきかについて学びます。

- 《日 時》 平成29年10月21日（土） 10:30～12:30（受付10:00～）
- 《場 所》 九州共立大学内 スポーツ学部B館 204号室
- 《参加者数》 11名

◆「スポーツ現場での突然死 ー心肺蘇生法と緊急対応計画の重要性ー」◆

あらゆる年代で起こりうるスポーツ活動中の突然死について学びます。また、AEDを用いた心肺蘇生法の実技もおこないます。

- 《日 時》 平成29年11月4日（土） 10:30～12:30（受付10:00～）
- 《場 所》 九州共立大学内 スポーツ学部B館 204号室
- 《参加者数》 2名

福原学園キャンパス市民ボランティア活動報告

本学では、学習の成果を発揮し、自らを育てる場として、また生きがいづくりのお手伝いの場として市民の方々に大学のキャンパスを提供しています。これが「キャンパス市民ボランティア制度」です。

【茶道ボランティア】

木曜日の13:30から15:00に不定期で定例会を行っています。活動内容は、留学生に「茶道体験」や「浴衣の着付指導」を行い、日本文化の伝承に努めています。また、ボランティアフェスタin八幡西における、お抹茶接待は大好評です。お点前披露、お抹茶のいただき方の指導なども行っています。平成29年度の登録は8名でした。



開催日	活動内容
平成29年4月13日	第1回定例会
平成29年6月1日	第2回定例会
平成29年12月12日	第1回勉強茶会 九共大・九女大 共通教育機構（日本文化研修）
平成30年2月25日	ボランティアフェスタ in 八幡西:お抹茶接待

【折り紙ボランティア】

おもに、第3金曜日の13:00から14:30に定例会をおこなっています。定例会では、折り紙講師の指導のもと、難しい技術にもチャレンジしています。平成29年度の登録は14名でした。

開催日	活動内容
平成29年4月21日	第1回定例会
平成29年5月19日	第2回定例会
平成29年6月16日	第3回定例会
平成29年7月28日	第4回定例会
平成29年9月15日	第5回定例会
平成29年10月20日	第6回定例会
平成29年11月17日	第7回定例会
平成30年1月19日	第8回定例会
平成30年2月16日	第9回定例会
平成30年3月16日	第10回定例会



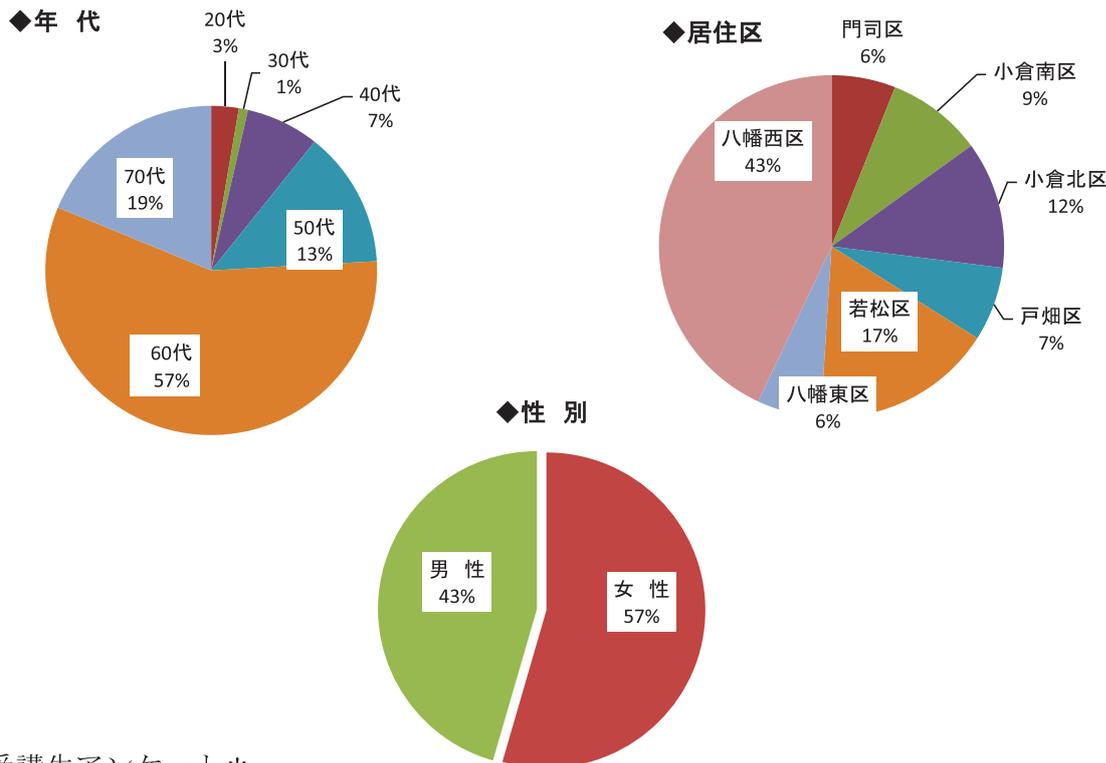
北九州 市民カレッジ 講座



北九州市教育委員会と連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上及び生涯学習社会を担う人材の育成を図るために行う講座です。

講 座 名	日時・回数・場所	受講生数	担 当 講 師
『源氏物語』を みんなで楽しく読む講座	5/19～8/4 毎週金曜日 13:00～15:00 10回 自由ヶ丘会館3階	8	九州女子大学 教 授 荻原 桂子
松本清張の作品をみんなでわいわい がやがや楽しく読む講座	5/19～8/4 毎週金曜日 15:00～17:00 10回 自由ヶ丘会館3階	8	九州女子大学 教 授 荻原 桂子
おもしろ数学(前編)	5/22～7/31 毎週月曜日 13:00～15:00 10回 自由ヶ丘会館3階	18	元九州共立大学 教 授 江口 弘文
フランス語とフランス文学を学ぶ ～フランスを旅するために～	5/19～8/4 毎週金曜日 14:30～16:30 10回 自由ヶ丘会館3階	4	九州共立大学 名誉教授 山本 和道
理科に関するものづくり入門講座(その2)	6/3～8/5 指定土曜日 10:30～12:30 6回 自由ヶ丘会館3階	5	九州共立大学 名誉教授 山口 静夫
大人が楽しむ絵本の世界 ～絵本の森で自分探しをしませんか?～	6/21～7/19 毎週水曜日 10:30～12:30 5回 自由ヶ丘会館3階	10	九州女子大学 特任准教授 今津 尚子
英文で観光案内を読む ～OBA式読解文法を用いて～	11/6～H30. 2/19 指定月曜日 10:30～12:30 10回 自由ヶ丘会館3階	14	九州女子短期大学 名誉教授 大庭 茂美
おもしろ数学(後編)	11/6～H30. 1/22 毎週月曜日 13:00～15:00 10回 自由ヶ丘会館3階	16	元九州共立大学 教 授 江口 弘文
心のレントゲンと自己理解 ～心理アセスメントへの誘い～	11/7～H30. 2/6 指定火曜日 10:30～12:30 10回 自由ヶ丘会館3階	9	九州女子短期大学 名誉教授 大庭 茂美
『源氏物語』を みんなで楽しく読む講座	11/10～H30. 2/9 指定金曜日 13:00～15:00 10回 自由ヶ丘会館3階	10	九州女子大学 教 授 荻原 桂子
旅のフランス語 ～フランスを旅するために～	11/10～H30. 1/26 毎週金曜日 14:00～16:00 10回 自由ヶ丘会館3階	5	九州共立大学 名誉教授 山本 和道
松本清張を みんなで楽しく読む講座	11/10～H30. 2/9 指定金曜日 15:00～17:00 10回 自由ヶ丘会館3階	7	九州女子大学 教 授 荻原 桂子
水泳愛好者のための水泳教室	11/6～H30. 1/22 毎週月曜日 14:00～16:00 10回 福原学園屋内公認プール	7	九州共立大学 講 師 森 誠護

＊受講生状況＊



＊受講生アンケート＊

大変楽しかった。大学卒業から数学に触れていなかったの、あまりに出来なくなって驚いた。内容は8割方は解り、全く解らなかつたのは1問くらいでした。中学生の精選問題も並行してやったが、半分解けるくらいだった。日常に使われている数学がもう少しわかるまで勉強を続けた。 (おもしろ数学)

フランス語の基礎を繰り返し教えてもらったお蔭で、随分理解できるようになった。また、文化の違いを教えてもらえるのも毎回楽しかった。開催場所が遠方だったが、時間をかけて通ったかいがありました。 (フランスとフランス文学)

親では教えることが、難しいテーマを毎回教えていただいた。親子ともども毎回の講座を楽しめた。また機会があれば受講したい。準備が大変だったかと思う。市販のキットではなく手作りの教材で素晴らしかった。 (理科に関するものづくり)

大変楽しかった。スポット受講から全体受講へと変更し受講出来て本当に良かった。先生の人柄もあって楽しい講座だった。今後につながっていくと良いと思う。絵本のことについてもっと知りたいと思った。先生の話に引き込まれ奥が深いと感じた。 (大人が楽しむ絵本の世界)

回を追うごとに、理解が深まります面白くなってきている。先生の豊かな知識と情熱に導かれて、もっと勉強したいと思った。とても奥深く又、幅広く勉強できた。先生や教室の雰囲気も良く楽しかった。 (『源氏物語』をみんなで楽しく読む講座)

清張以外の文学の話も聞けて楽しかった。清張と真逆の渡邊淳一氏の本を参考に昭和史を読み比べる試みはそれなりに面白かった。渡邊氏の大雑把な部分と清張の綿密さが対比されよくわかった。 (松本清張をみんなで楽しく読む講座)

すごく分かりやすく指導してもらった。今後に生かしていきたい。始めは皆さんのレベルが高いし、プールが深かったので続くかどうか不安に思っていたが、とても丁寧の一つ一つ教えて下さったので、最後まで続けることができました。ご指導ありがとうございました。それぞれの回でテーマがあるのでわかりやすかった。水中映像や練習のノウハウも指導され、役に立ちました。正しい泳法が習得出来て良かった。 (水泳愛好者のための水泳教室)

「何かの役に立てよう」というよりは、純粋に大学生になったように学ぶことができ、その時間が楽しく大切なものでした。講座のテーマに付随して関連のあることをいろいろと教えていただいて、とても興味深く自身の知識を得るのに役に立ちました。 (心のレントゲンと自己管理)

英語の構成をロジカルに説明してくださり、それをどういう風に自分で組み立てるかのHow toを教えて下さったのが良かった。英語を勉強する機会をいただき、英検を受験するきっかけとなりました。とても授業が解り易く観光英語を勉強したので、旅行に出かけたくなりました。 (英文で観光案内を読む)

北九州市立年長者研修大学校穴生学舎シニアサマーカレッジ

穴生学舎では、高齢者の生きがい対策の一環として、「生きがい・健康・ふれあい」、を基本理念に自立した高齢期の生き方を提唱しています。また高齢者の活力を地域に還元する仕組みづくりとして、ボランティア活動を通じて、高齢者の社会参加を促進する研修や事業等の推進をしています。本年も、増大かつ多様化し、ますます高度化する学習ニーズに応えるため、本大学のキャンパスを利用した「シニアサマーカレッジ」を開講しました。

テーマ「おもしろ社会学」～頭と身体に運動・栄養・休養を与え、元気になろう！～

《期 間》 平成29年7月21日(金)～10月6日(金)

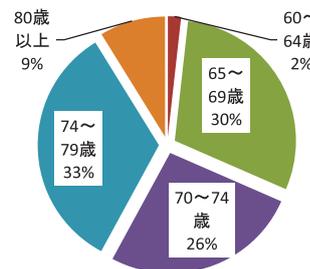
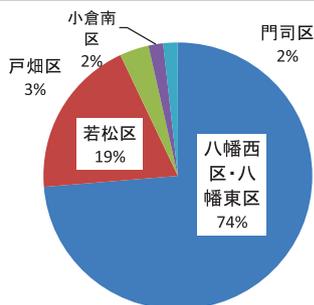
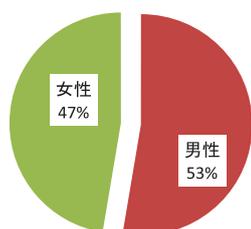
《回 数》 10回

《場 所》 九州共立大学内 自由ヶ丘会館3階

《受講者数》 57名

開講日	時 間	講 座 内 容	担 当 講 師
7/21 (金)	10:00～12:00	開校式・オリエンテーション	北九州市年長者大学校 穴生学舎職員
	13:00～15:00	現代ボランティア事情 ～今後のボランティア活動の行方～	九州共立大学 准教授 山田 明
7/28 (金)	10:00～12:00	西郷隆盛の真実	自由ヶ丘高等学校 教諭 三浦 明彦
	13:00～15:00	使って覚える英語～相互交流メソッド～	九州共立大学 講師 大塚 知昇
8/4 (金)	9:00～19:00	校外研修 (山口県) 「歴史が息づく千年のまち 周防防府」	自由ヶ丘高等学校 教諭 三浦 明彦
8/25 (金)	10:00～12:00	漢字のはなし	九州女子大学 准教授 古木 誠彦
	13:00～15:00	音楽を活用した心の健康づくり	九州女子短期大学 教授 津山 美紀
9/1 (金)	10:00～12:00	まちづくりと多世代交流	九州共立大学 教授 梅田 勝利
	13:00～15:00	安全な車の運転、楽しくお出かけ	九州共立大学 教授 新井 智
9/8 (金)	10:00～12:00	(続) 災害大国・日本 ～自分だけは助かる！？～	九州共立大学 教授 成富 勝
	13:00～15:00	目と耳と上手に付き合おう！	九州女子短期大学 講師 佐藤 恵子
9/15 (金)	10:00～12:00	有酸素運動でメタボ撃退 ～有酸素運動の理論と実際～	九州女子短期大学 講師 松崎 守利
	13:00～15:00	第一印象を磨く！	九州共立大学 教授 西川 三恵子
9/22 (金)	10:00～12:00	いつまでも元気に！ ～肩こりや肩痛の予防・改善のためのエクササイズ基礎知識～	九州共立大学 教授 篠原 純司
	13:00～15:00	生活に広まった無人航空機	九州共立大学 講師 水井 雅彦
9/29 (金)	10:00～12:00	楽しく学ぼう！カウンセリング技法	九州女子大学 准教授 友納 艶花
	13:00～15:00	杉田 久女の世界	九州女子大学 教授 萩原 桂子
10/6 (金)	10:00～12:00	自己開示が人生を豊かにする	九州共立大学 特任教授 田中 邦博
	13:00～15:00	サックス演奏・閉校式・茶話会	寺田 幸司 穴生学舎職員

※受講者状況



第15回 ボランティアフェスタ in 八幡西

テーマ ～未来を見つめ、共に歩む～

日時：平成30年2月25日（日） 11：30～16：00

場所：九州共立大学 自由ヶ丘会館4階 多目的ホール

主催：ボランティアフェスタ in 八幡西実行委員会

後援：北九州市

第15回  **旧八幡市制100周年記念事業**

ボランティアフェスタ

～未来を見つめ、共に歩む～ **in 八幡西**

平成30年2月25日（日）
11：30～16：00

会場：九州共立大学 自由ヶ丘会館4階

オープニング



折尾神楽保存会
みんなの職場研究会



伝統芸能エイサー
福原学園
沖縄県人会



マジックショー



自由ヶ丘高校
吹奏楽部



ダンスパフォーマンス
おやしFlavors

体験コーナー
折り紙
ハンド
マッサージ

みんなで楽しむ
イベント

自由ヶ丘高校
吹奏楽部

八幡市
写真展
なつかしい

パネル展示
交流タイム

情報がいっぱい

ほらんていあ川州
表彰式

体操
365歩のマーチ
健康マイレージ

販売コーナー 11時30分～売り切れ次第終了します

北九州フレンド
障害者による
手づくりの陶器
コップ
ランプシェードなど

インクル八千代
八幡西障害者地域活動センター
陶器
木工製品
ポストカードなど

北九州第二あゆみ通所施設
手づくり作品がいっぱいの
バザー
アクセサリー、かばん
コサージュなど

キャンパス茶道ボランティア
お抹茶と和菓子を
優雅にいかがですか？
お抹茶券 200円
受付で販売します。

**八幡西区
ボランティア連絡協議会**
美味しいコーヒーで
ほっとひととき！
1杯 100円

太陽パン
あんぱん
メロンパン
クッキーなど

My夢
クッキー・パウンドケーキ
ビスコッティ
マドレーヌ
コロッケ・ちらし寿司など

**北九州市八幡西区
食生活改善推進員協議会**
手づくりのクッキー
販売します

赤坂地区社会福祉協議会
芋ぜんざい
いが芋三兄弟
食べてみて！

問合せ先
八幡西区社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL 642-0407
八幡西区黒崎3丁目15-3
コムシティ6階

主催：ボランティアフェスタ in 八幡西実行委員会 **後援：北九州市**

平成29年度 地域連携推進センターの業務成果

月	日	曜日	地域連携推進センター運営委員会・地域連携協議会・地域連携推進事業評価委員会の開催等と協定・覚書の締結
5	24	水	第1回地域連携推進センター運営委員会
6	28	水	第2回地域連携推進センター運営委員会
7	26	水	第3回地域連携推進センター運営委員会
8	31	木	水巻町と協定締結「水巻町と九州共立大学との包括的地域連携に関する協定」
9	7	木	第1回地域連携協議会
	21	木	福岡県立北九州高等学校と協定締結「高大連携に関する協定」
	25	月	第4回地域連携推進センター運営委員会
10	27	金	第5回地域連携推進センター運営委員会・教育懇談会
11	24	金	第6回地域連携推進センター運営委員会
1	26	金	第7回地域連携推進センター運営委員会
2	9	金	第2回地域連携協議会
	23	金	第8回地域連携推進センター運営委員会
3	2	金	地域連携推進事業評価委員会
	23	金	第9回地域連携推進センター運営委員会





九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

平成 29 年度 九州共立大学 地域連携推進センター 報告書
発行 平成 30 年 5 月

学校法人福原学園

九州共立大学 地域連携推進センター

〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-8

TEL&FAX 093-693-3255 E-mail renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp